

令和元年度 情報モラル調査結果(確定版)

令和2年3月10日
岐阜県教育委員会

【 実施概要 】

- <調査対象> 岐阜県内公立の小中高等学校及び特別支援学校高等部
 小学校 1年から6年 の児童
 中学校 1年・2年・3年 の生徒
 高等学校 1年・2年・3年 の生徒
 特別支援学校 高等部 1年・2年・3年 の生徒
- <調査方法> 各学校で、校舎別・課程別・学年別に1クラスを抽出して、無記名アンケートにより調査
- <実施期間> 令和元年11月～ 12月

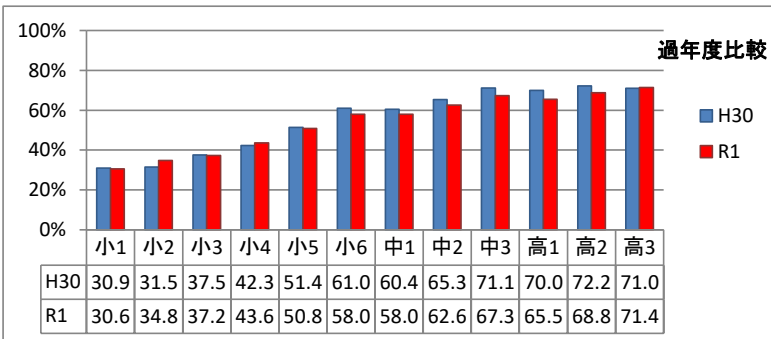
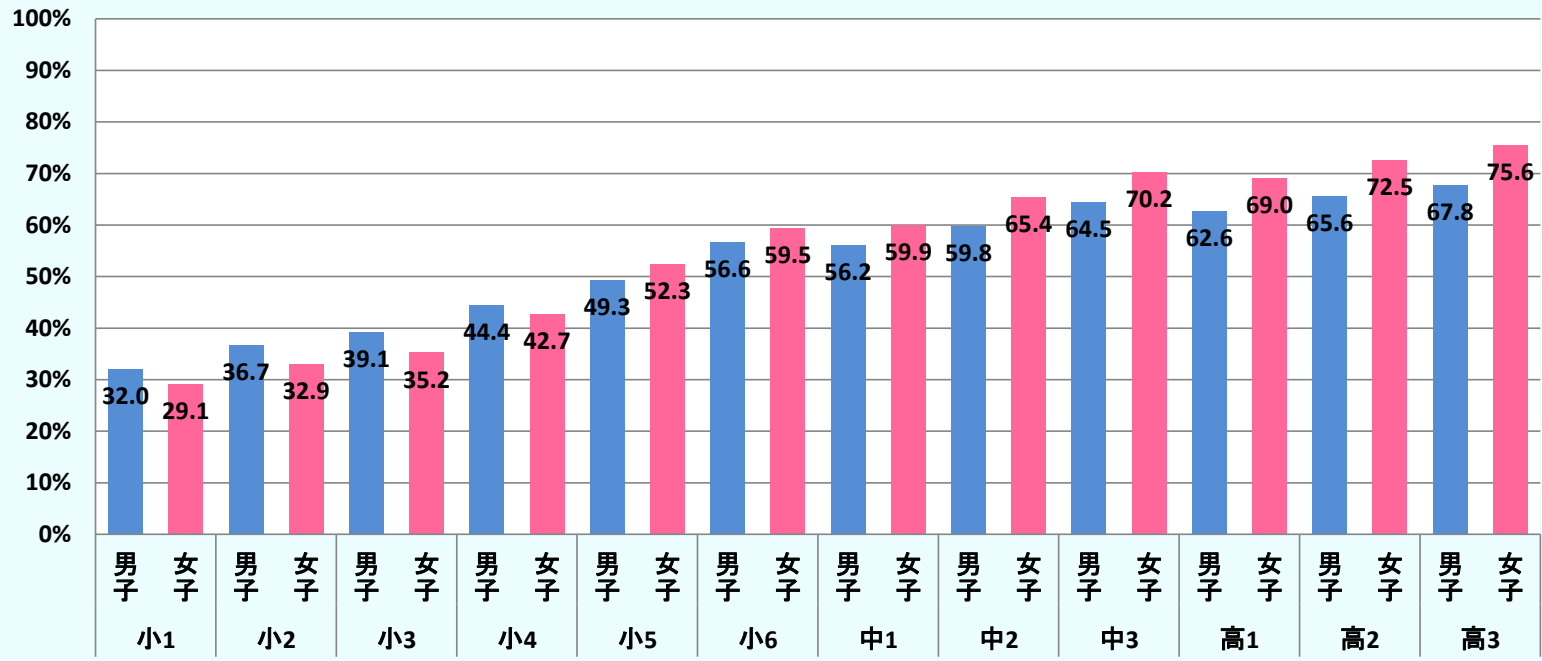
<調査数> ※ 「高」は特別支援学校高等部を含む
 (令和元年度)

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小	中	高・特	合計
学校数	369	369	369	369	369	369	178	178	178	88	88	88	369	178	88	635
人数	7,982	8,145	8,113	8,890	8,988	8,891	4,881	5,145	5,104	2,614	2,595	2,555	51,009	15,130	7,764	73,903
男子	4,027	4,114	4,133	4,500	4,564	4,535	2,462	2,604	2,615	1,431	1,397	1,357	25,873	7,681	4,185	37,739
女子	3,955	4,031	3,980	4,390	4,424	4,356	2,419	2,541	2,489	1,183	1,198	1,198	25,136	7,449	3,579	36,164
男女比(%)	50 : 50	51 : 49	51 : 49	51 : 49	51 : 49	51 : 49	50 : 50	51 : 49	51 : 49	55 : 45	54 : 46	53 : 47	51 : 49	51 : 49	54 : 46	51 : 49

(平成30年度)

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小	中	高・特	合計
学校数	369	369	369	369	369	369	179	179	179	88	88	88	369	179	88	636
人数	8,362	8,423	8,465	9,156	9,166	9,362	5,038	5,291	5,332	2,796	2,729	2,628	52,934	15,661	8,153	76,748
男子	4,239	4,298	4,290	4,643	4,682	4,731	2,525	2,724	2,729	1,459	1,455	1,456	26,883	7,978	4,370	39,231
女子	4,123	4,125	4,175	4,513	4,484	4,631	2,513	2,567	2,603	1,337	1,274	1,172	26,051	7,683	3,783	37,517
男女比(%)	51 : 49	51 : 49	51 : 49	51 : 49	51 : 49	51 : 49	50 : 50	51 : 49	51 : 49	52 : 48	53 : 47	55 : 45	51 : 49	51 : 49	54 : 46	51 : 49

Q1. 家に、インターネットに接続できて、あなたが使えるパソコンがありますか。



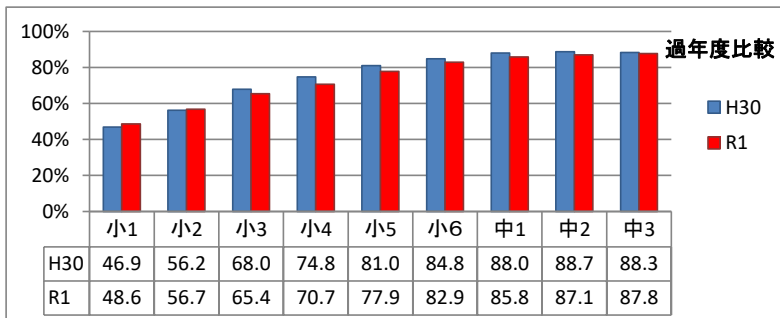
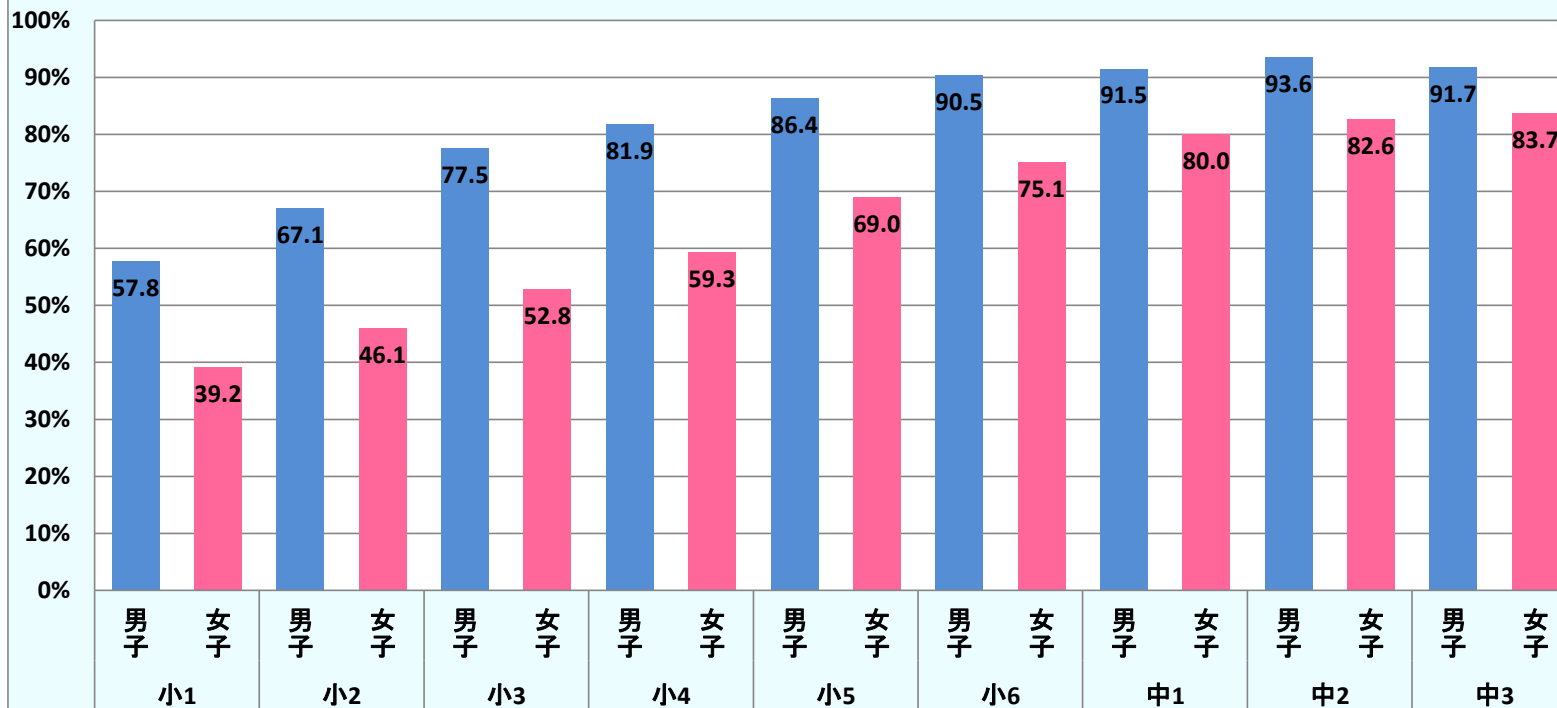
【傾向】

・全体的に、前年度と比較してパソコンの使用が減少している。スマホの利用が進んでいると思われる。

【指導・啓発のポイント】

- ・スマートフォン使って、児童生徒がインターネットを利用する際には、必ずフィルタリングをかけることを啓発する。
- ・大人がスマートフォン等にID、パスワードを記憶させた状態で使用していると、ネットでの購入やトラブルに巻き込まれる可能性が高くなる。

Q2.あなたは、通信型ゲーム機や携帯音楽プレーヤーをっていますか。



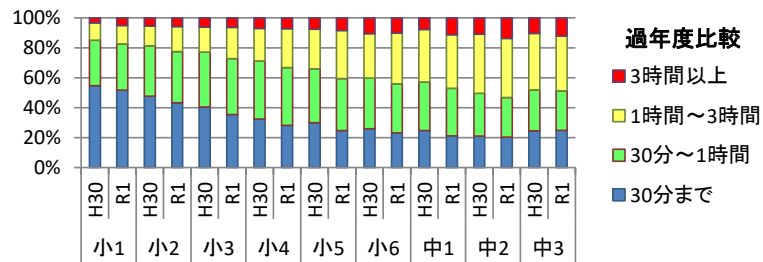
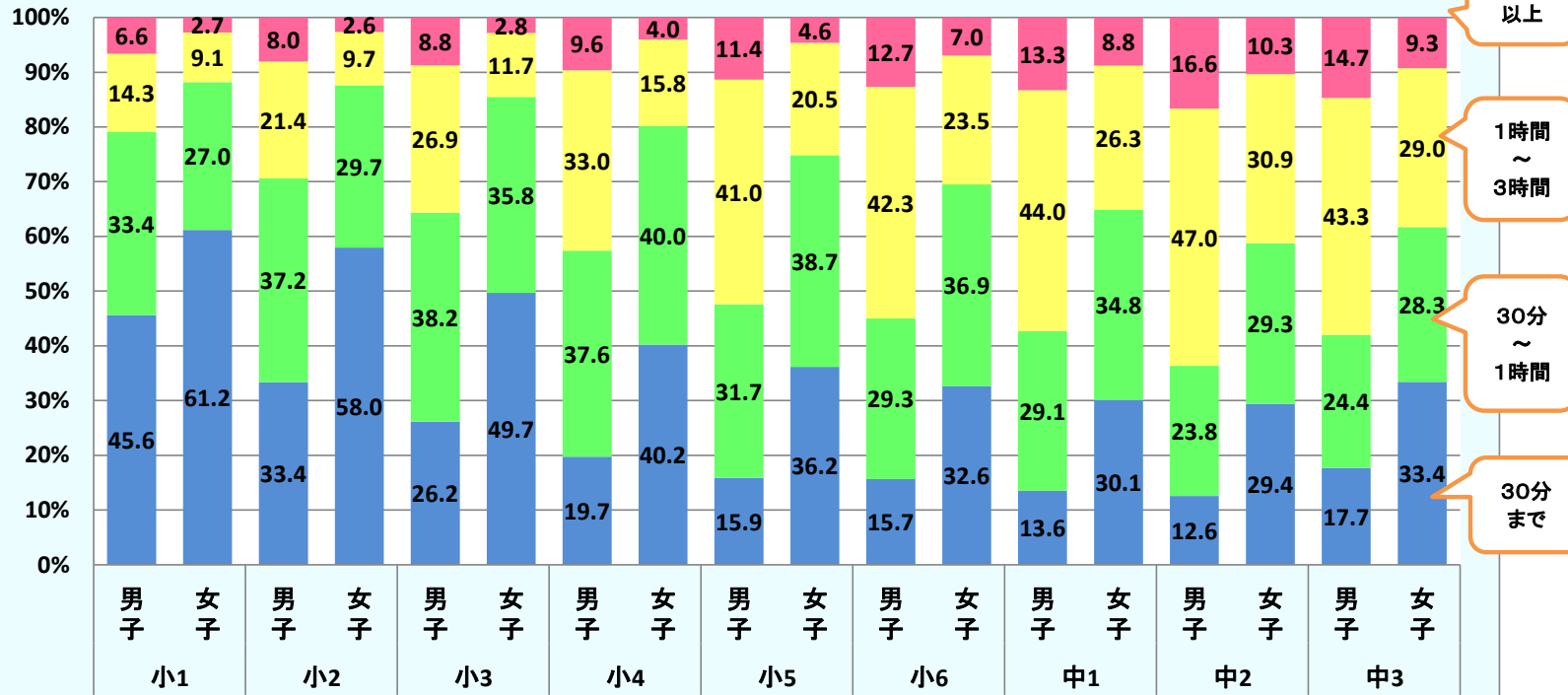
【傾向】

- ・どの学年においても男子の所持率は非常に高い。
- ・小学低学年において、男女の所持率の差が大きい。

【指導・啓発のポイント】

- ・通信型ゲーム機は、「電話ができないだけのスマートフォン」と位置付けて指導・啓発する必要がある。(通話ができる機種もある。)
- ・通信型ゲーム機からでも、インターネットに接続し、有害な情報等を得ることができるため、小学校低学年からのルールやマナー、ゲーム機の設定等について、保護者に啓発する必要がある。

Q3.通信型ゲーム機を使う時間は平日で1日あたりどれくらいですか。(Q2で持っていると答えた人)



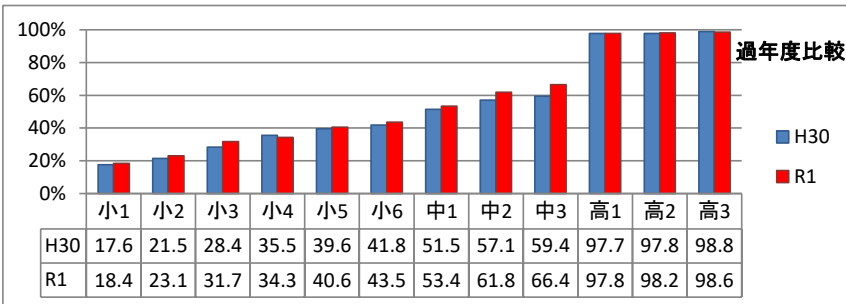
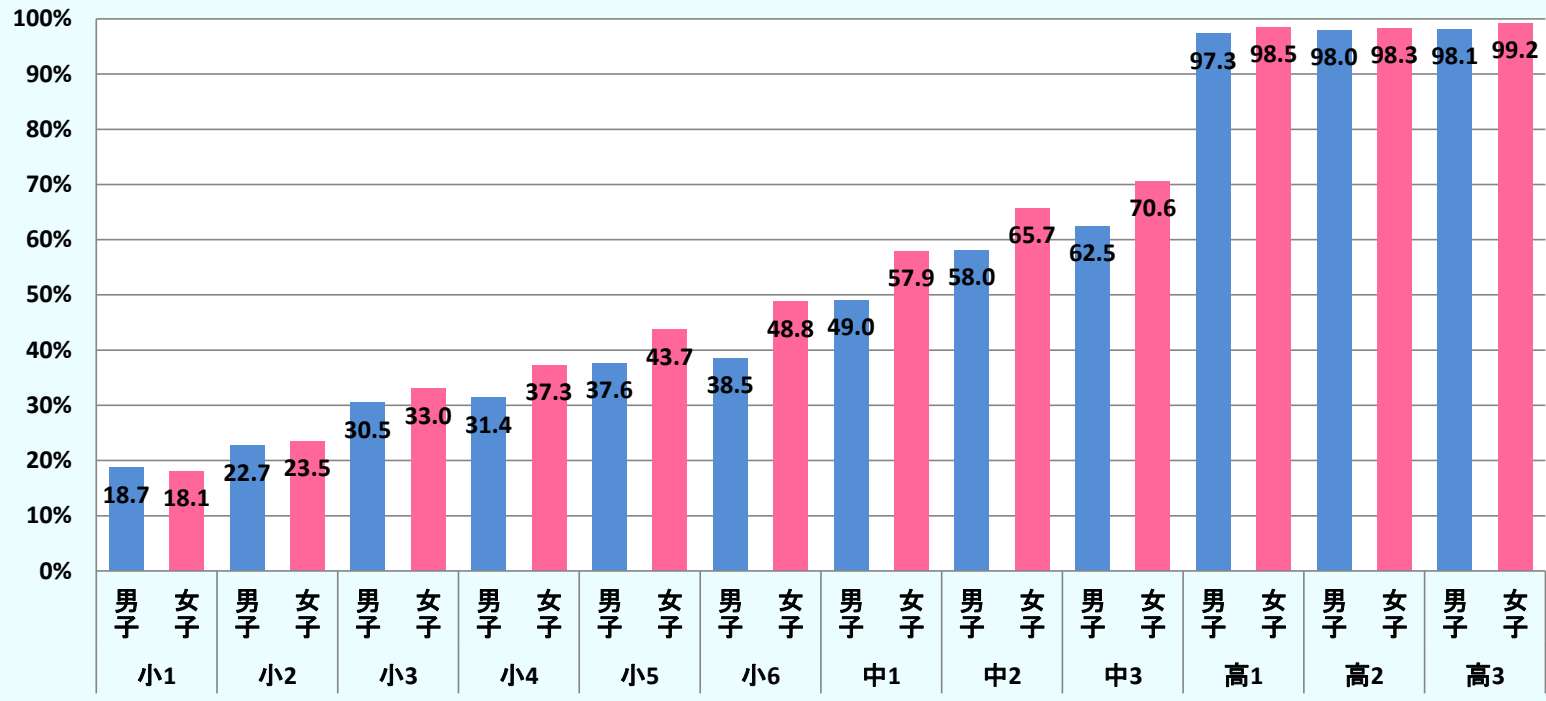
【傾向】

- ・男子の使用時間が女子に比べて多い。
- ・前年度と比較して、1～3時間以上使用している児童生徒が増加している。

【指導・啓発のポイント】

- ・長時間使用により、睡眠や視力障がいといった心身の不調のほか、学力の低下も懸念されることや、WHO(世界保健機関)がゲーム依存を病気として認定したことについて考えさせることが重要である。

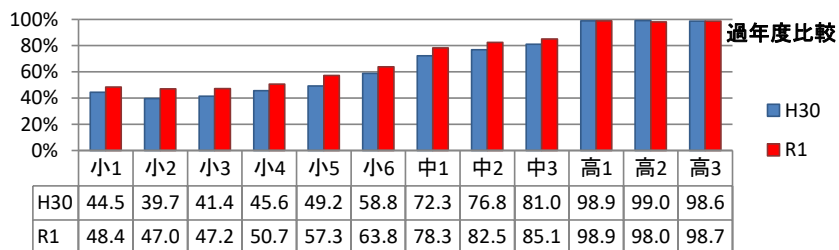
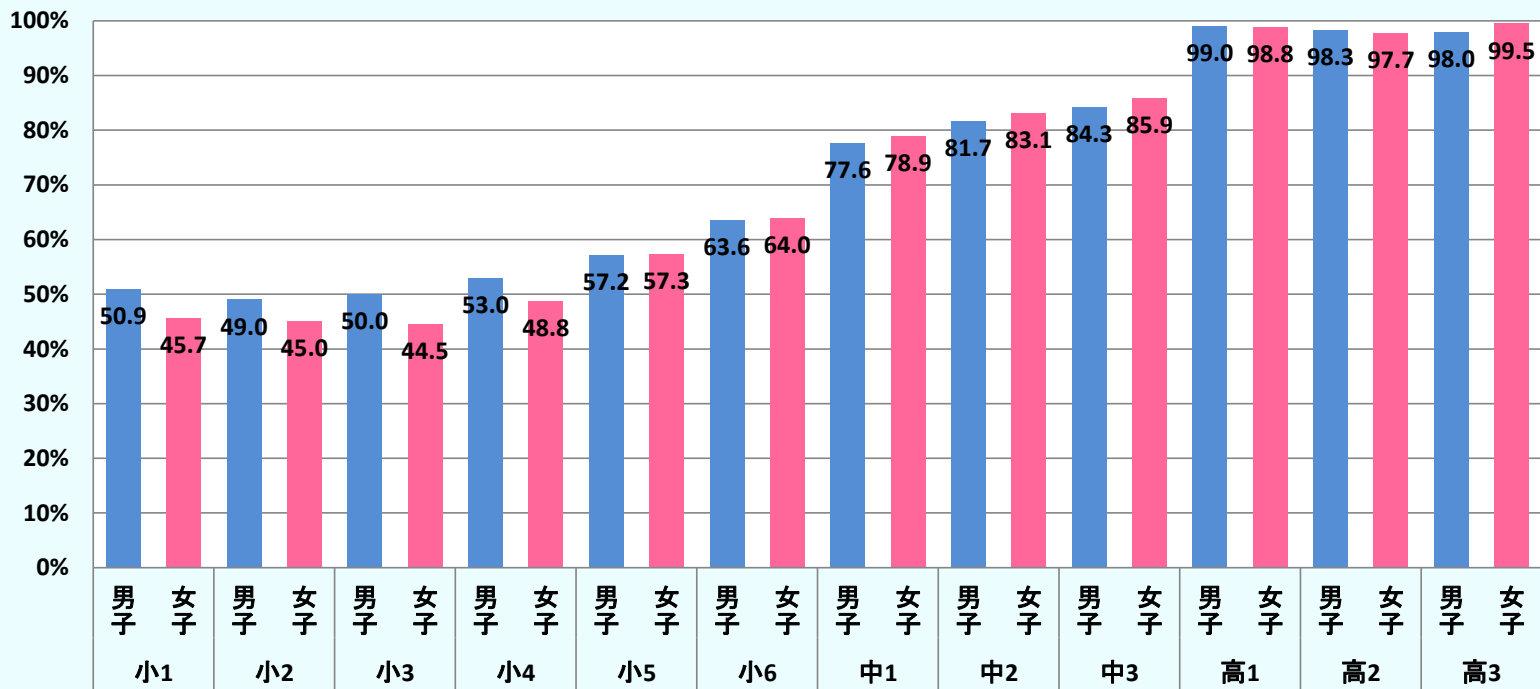
Q4. あなたは、自分の携帯電話を持っていますか。



【傾向】
 ・毎年徐々にではあるが、小中学生の所持率が上がっている。

【指導・啓発のポイント】
 ・自分の電話番号やアプリのIDなどの個人情報は、不必要に教えない。
 ・断片的な情報を組み合わせることで個人が特定され、事件に発展した事例等を学校、家庭等で紹介する。
 ・家庭において使い方ルールを決める。

Q5.スマートフォンですか。
(Q4で携帯電話を持っていると答えた人)



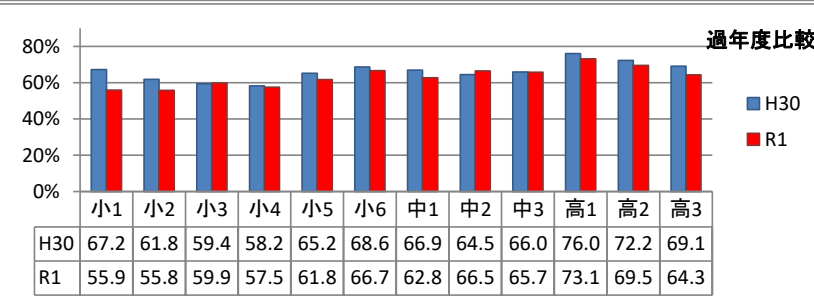
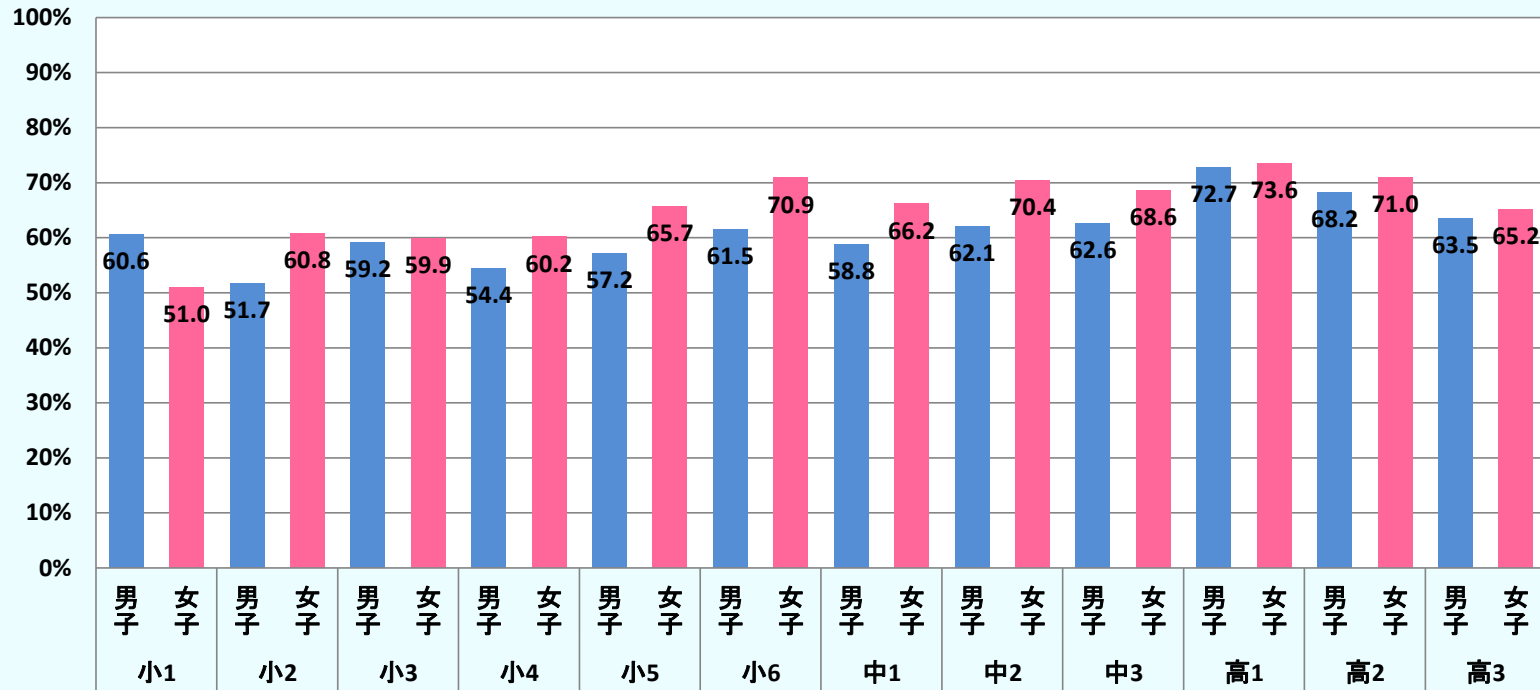
【傾向】

・前年度と比較して小学生、中学生の所有率が上昇している。

【指導・啓発のポイント】

・中高生では、スマートフォンが主流となっている。不用意なダウンロードによって、スマートフォンを乗っ取るソフトや、不具合を起こす悪性プログラムを勝手にインストールするウイルスが含まれることがある。

Q6.フィルタリングしていますか。(Q4で携帯電話をもっていると答えた人)



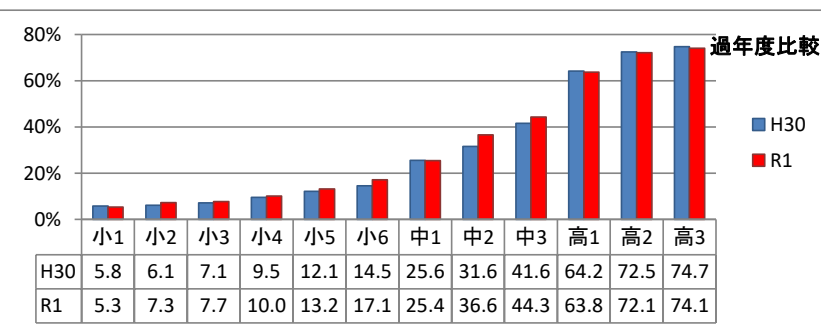
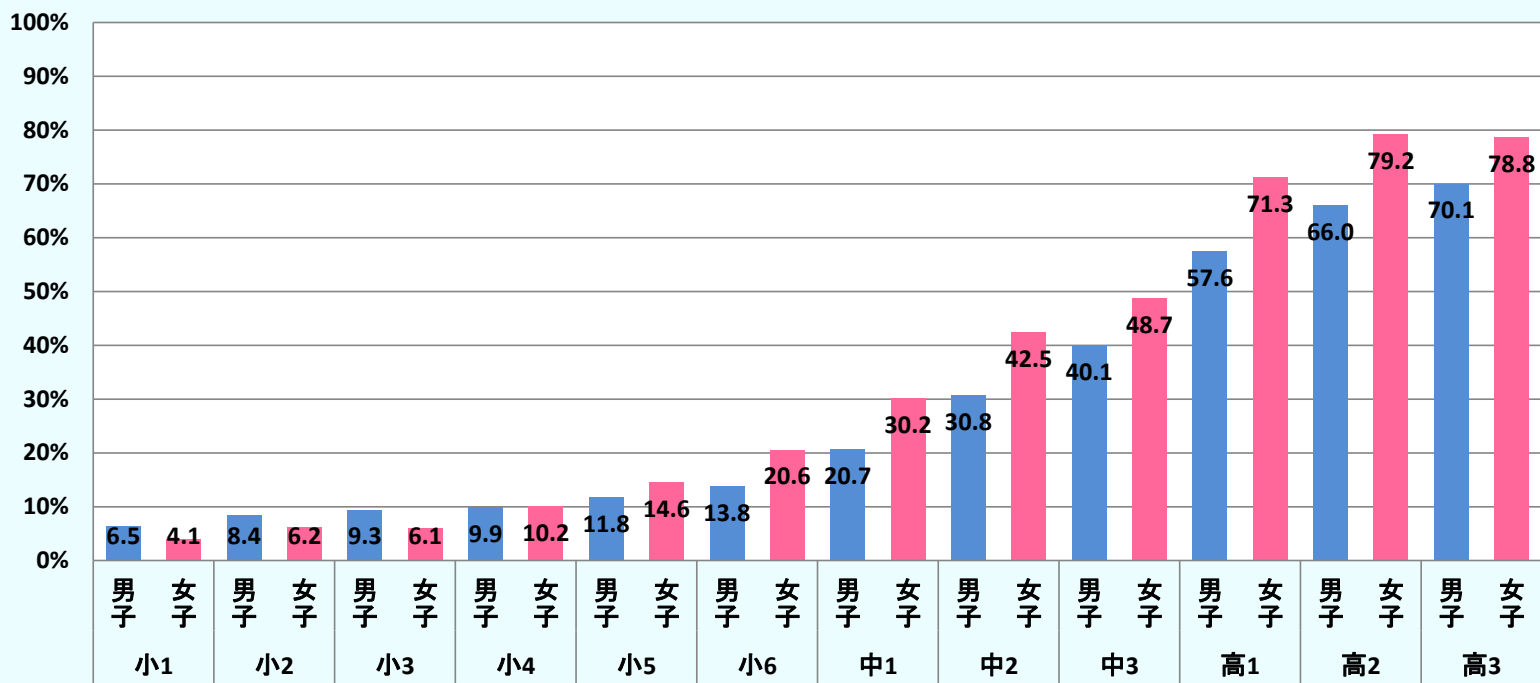
【傾向】

- ・前年度と比較して、全体的に設定率が下がっている。
- ・全学年を通して、男子の設定率が低い。

【指導・啓発のポイント】

・携帯電話のフィルタリングについては、「岐阜県青少年健全育成条例」が改正され、正当な理由がない限り、フィルタリングサービスを外すことはできない点について、児童生徒、保護者及び地域全体に対して、より一層の周知啓発が必要である。

Q7.あなたは、インターネットや携帯電話でSNSに書き込みをしたことがありますか。



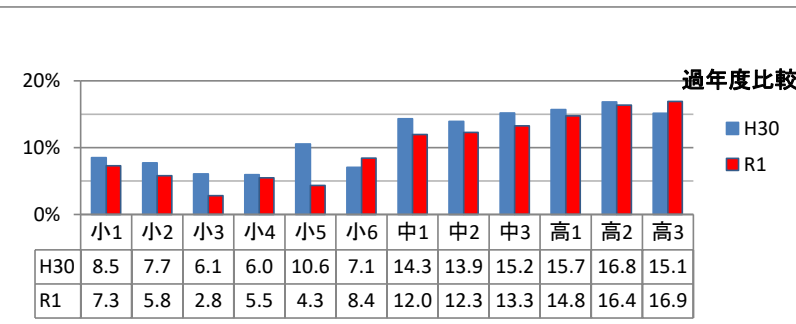
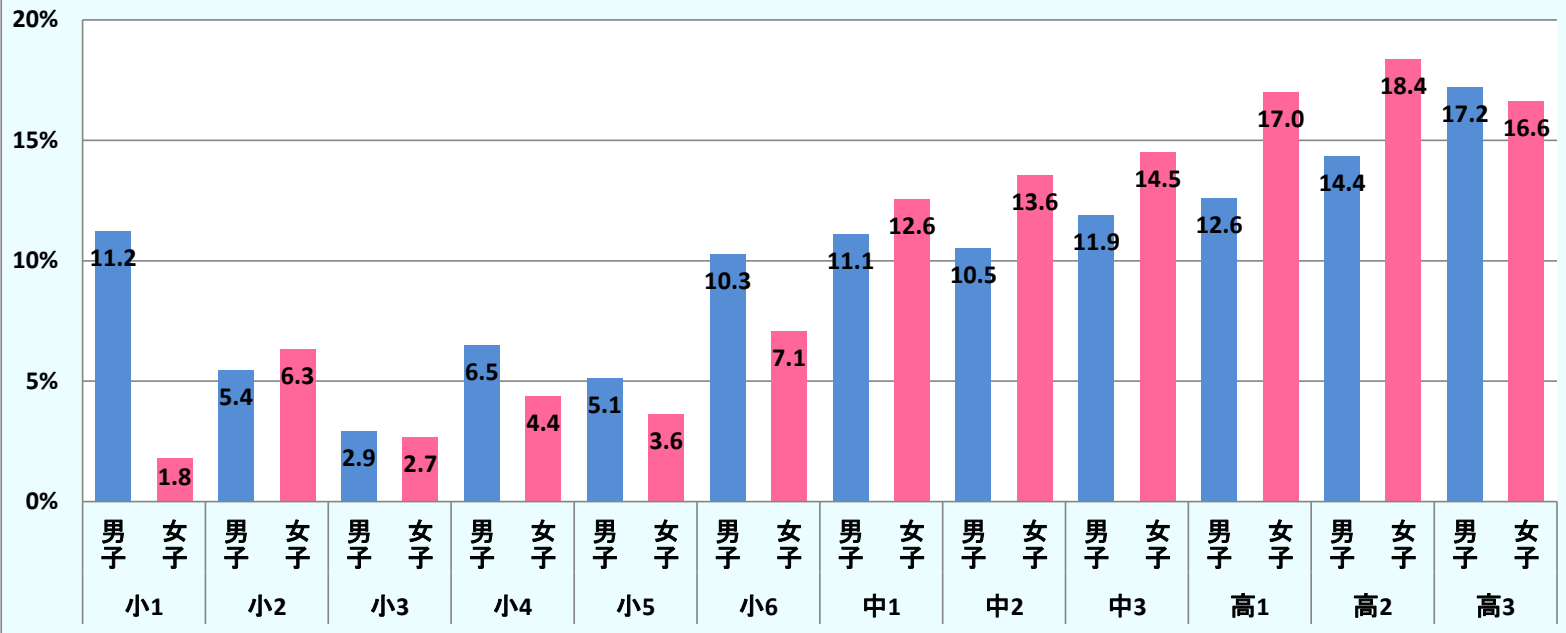
【傾向】

- ・前年度と比較して、中学校2、3年生の書き込み率が上昇。
- ・小学生までは男子の書き込み率が高く、学年が進むと女子の割合が高くなる。高校生の書き込み率が高い。

【指導・啓発のポイント】

- ・個人情報の書き込みによるプライバシーの侵害や名誉毀損などインターネットによる人権侵害が増加しており、安易な書き込みが犯罪につながる。
- ・匿名であっても投稿者の特定は可能であることを啓発する。

Q8.あなたは、他人の悪口や個人情報を公開するような書き込みをしたことがありますか。(Q7で「書き込みをしたことがある」と答えた人)



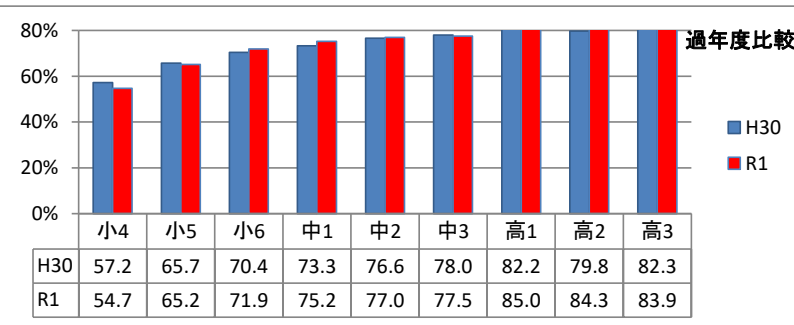
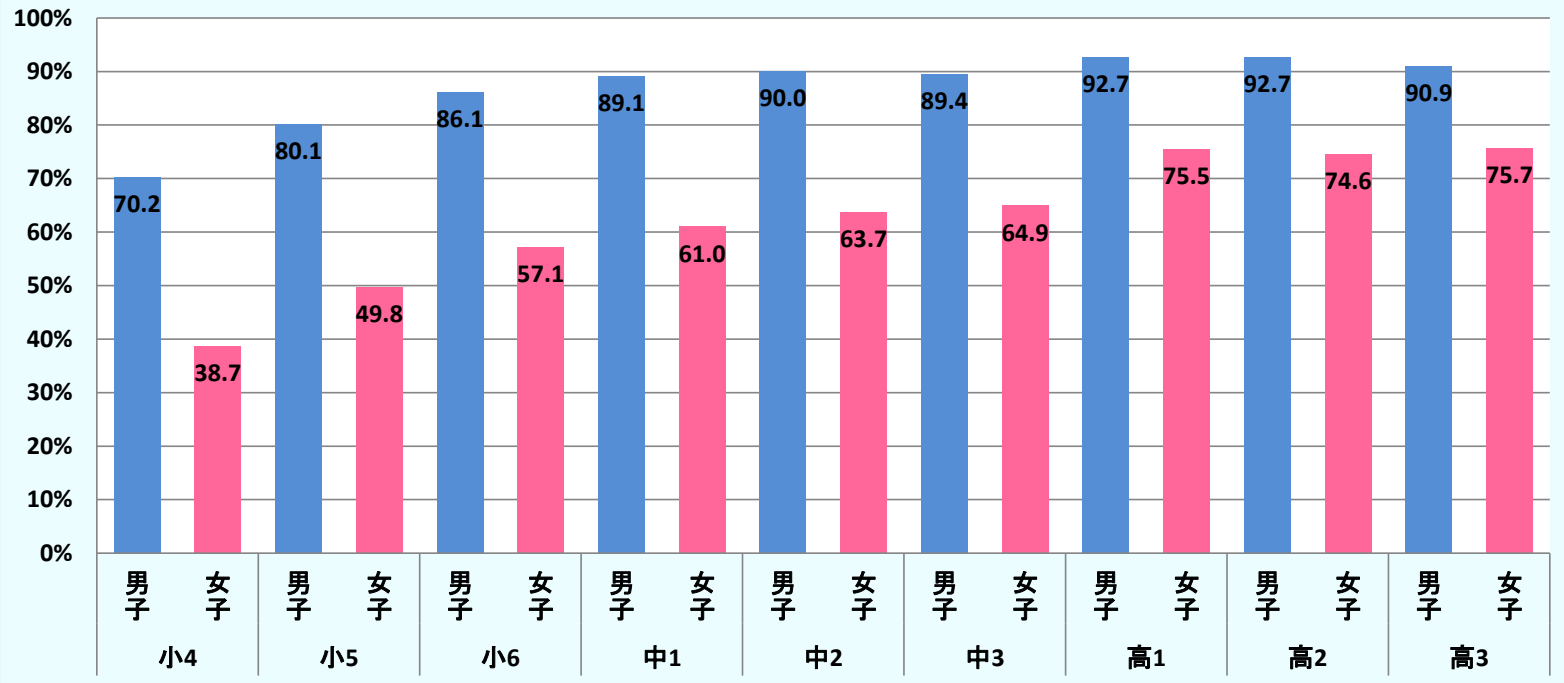
【傾向】

- ・前年と比較して、他人の悪口当の書き込みは減少。
- ・中学～高校の女子生徒の書き込みは前年と同様に高い傾向にある。

【指導・啓発のポイント】

- ・ネットに他人の個人情報を書き込んだことから、大きな問題に発展する事例を紹介しつつ、他人の個人情報を書き込むことは、犯罪行為につながることを認識させる。

Q9.あなたは、オンラインゲームをしたことがありますか。



【傾向】

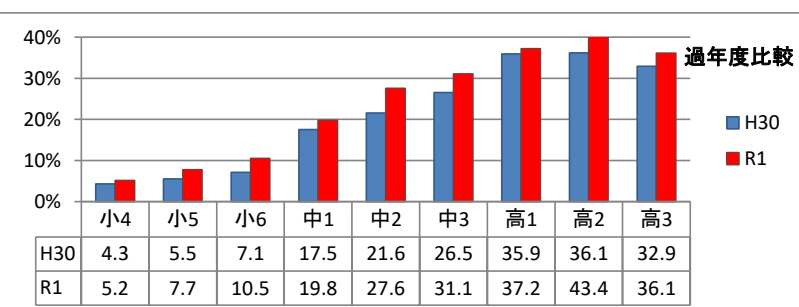
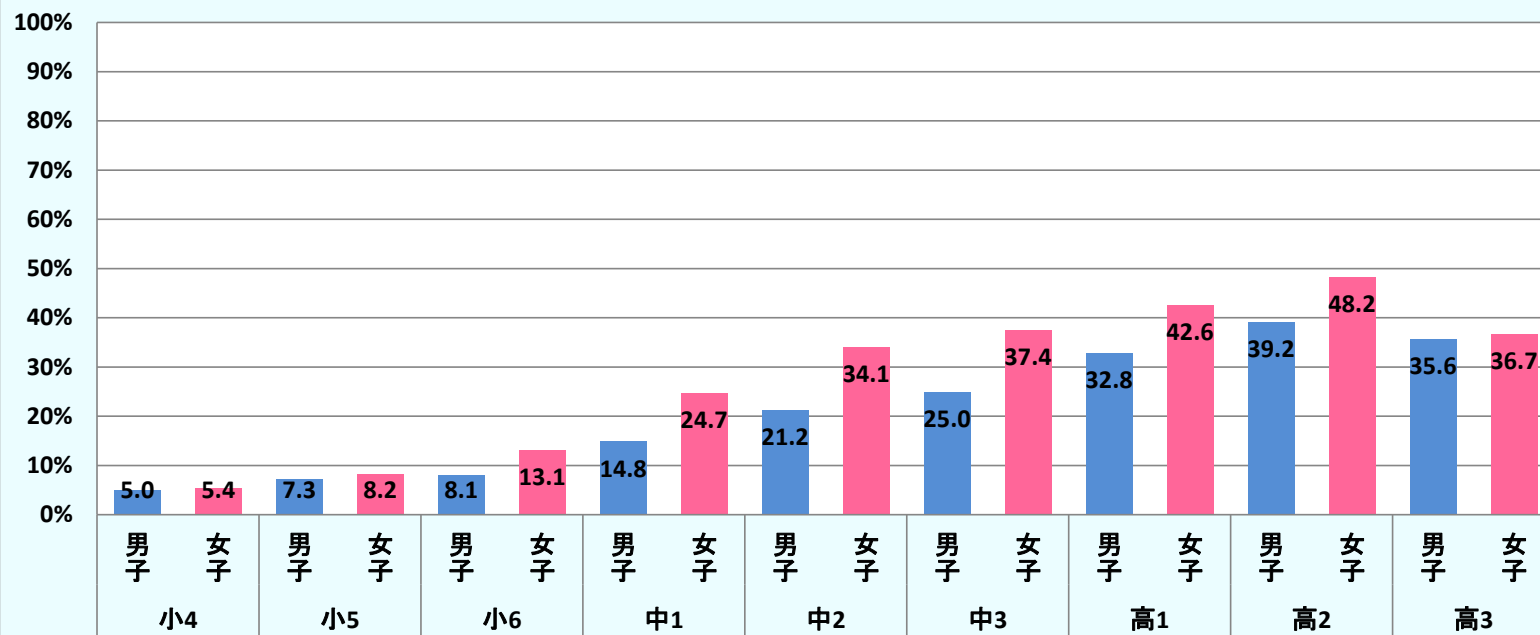
・全体的に、増加傾向にあり、男子の利用割合が女子と比較して高い。

【指導・啓発のポイント】

・オンラインゲーム上での、面識のない人物との気軽なやり取りの中に、プロフィールを偽って近づいてくる悪意のある人物とつながり大きな事件に巻き込まれる事例を紹介する。

・無料ゲームだからと安心して利用していても、途中から課金制になることもある。高額請求される事例も紹介する。

**Q10.あなたは、携帯電話やパソコンから見る事ができる自分のホームページ
(ブログ・プロフを含む)をもっていますか。**



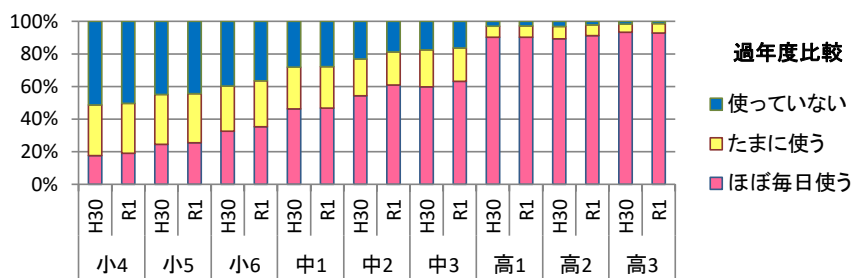
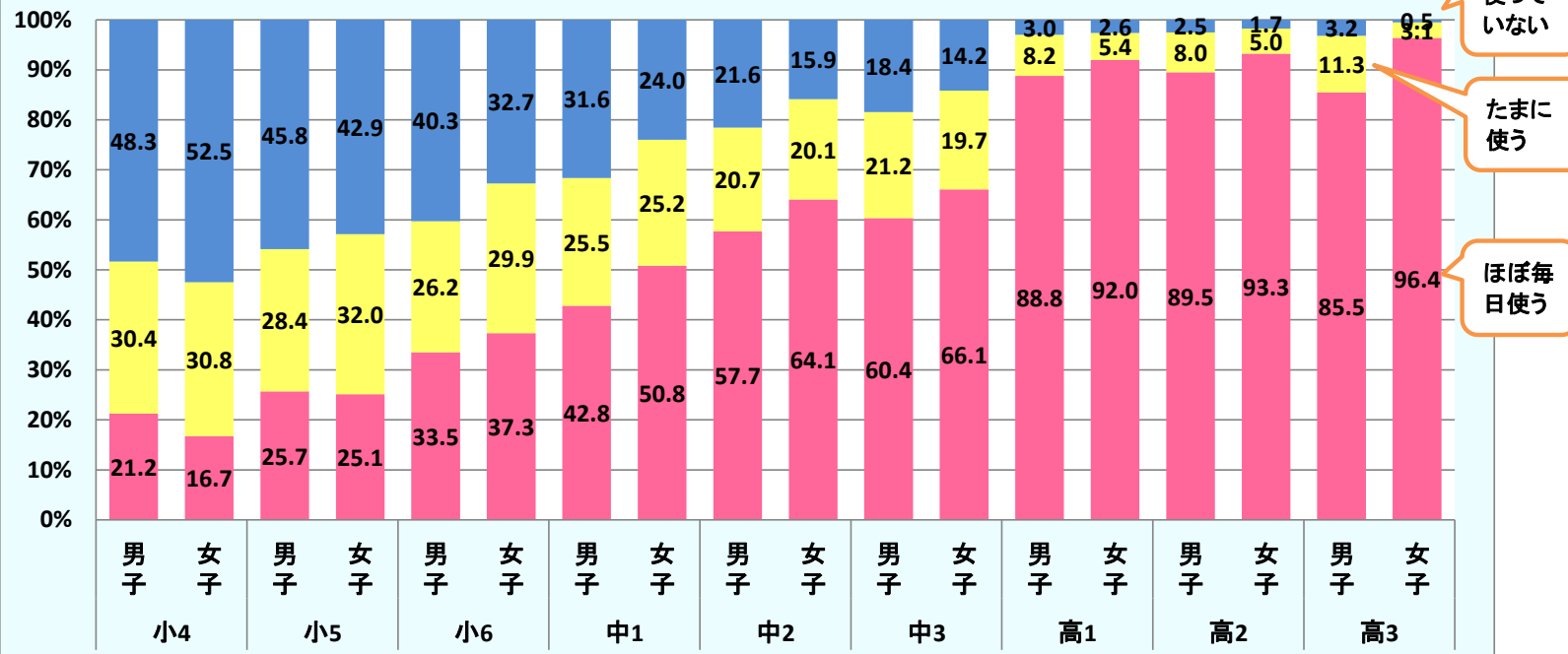
【傾向】

- ・全体的に年々増加している。
- ・学年が上がるにつれ、女子が増加する。

【指導・啓発のポイント】

- ・無料通話アプリなどSNSを活用し、安易にネット上に個人情報発信する児童生徒の割合は増加しており、多くのトラブルに巻き込まれていることを理解させる。
- ・一度掲載すると消すことは難しいことを理解させる。(デジタルタトゥー)

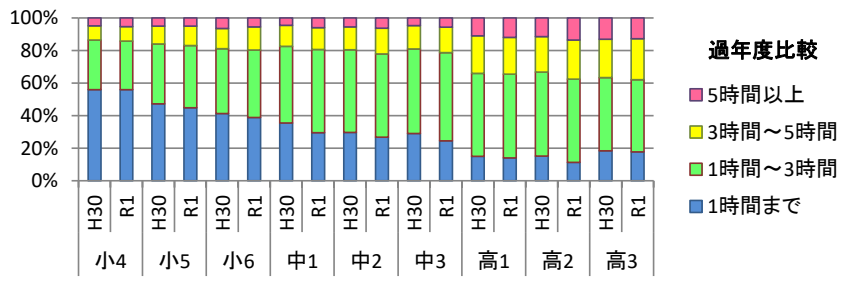
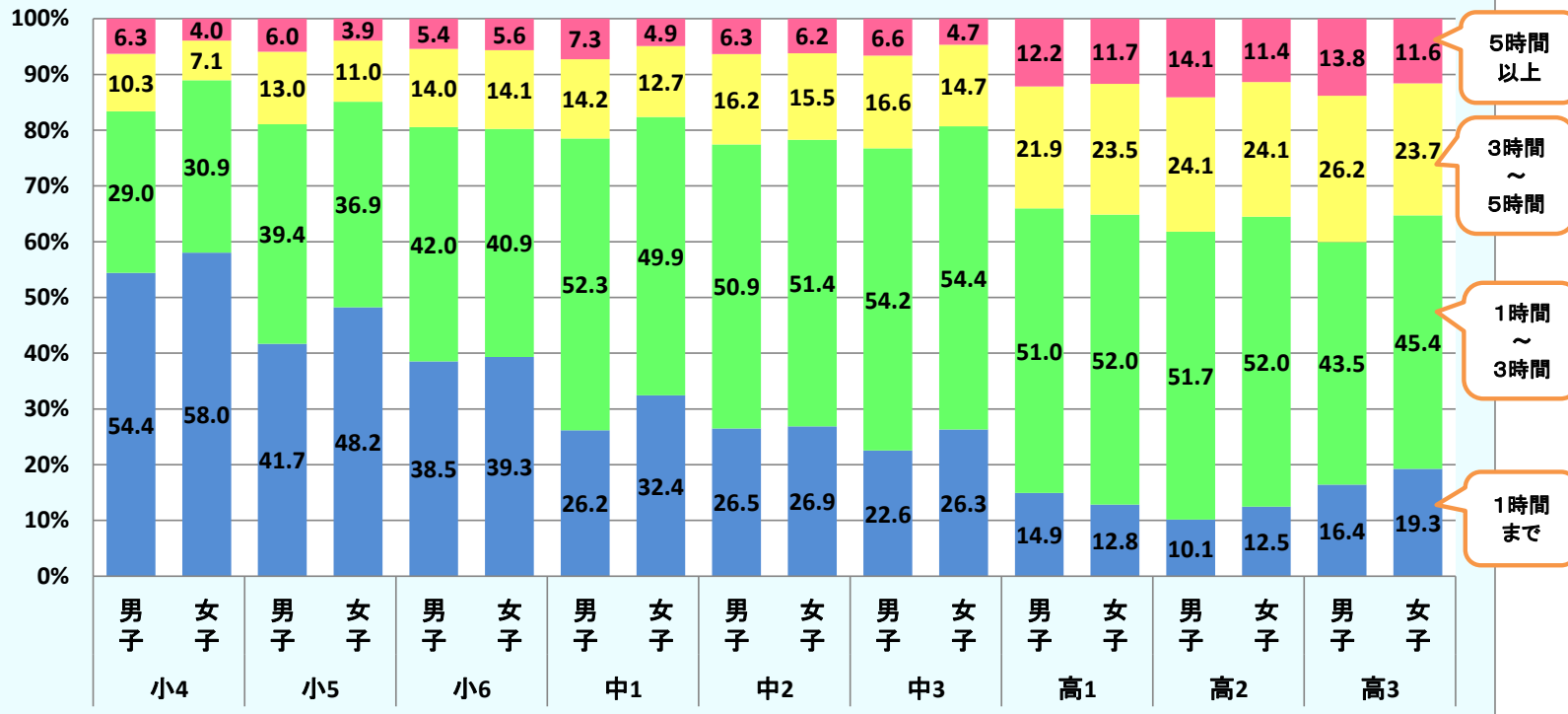
Q11.ホームページを見たり、メールやチャットをしたり、SNSを使ったり、
オンラインゲームをしたりするために、携帯電話をどれくらい使いますか。



【傾向】
 ・全ての学年において、「ほぼ毎日使う」と答えている割合が増加している。

【指導・啓発のポイント】
 ・メールやスタンプ等だけでコミュニケーションする場合、相手の表情や声の雰囲気はわからないため、誤解を招くことが多いことを理解させる。
 ・適切なコミュニケーション方法についての学習が必要である。

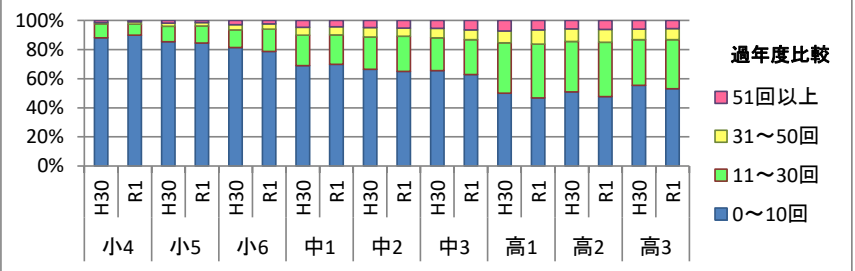
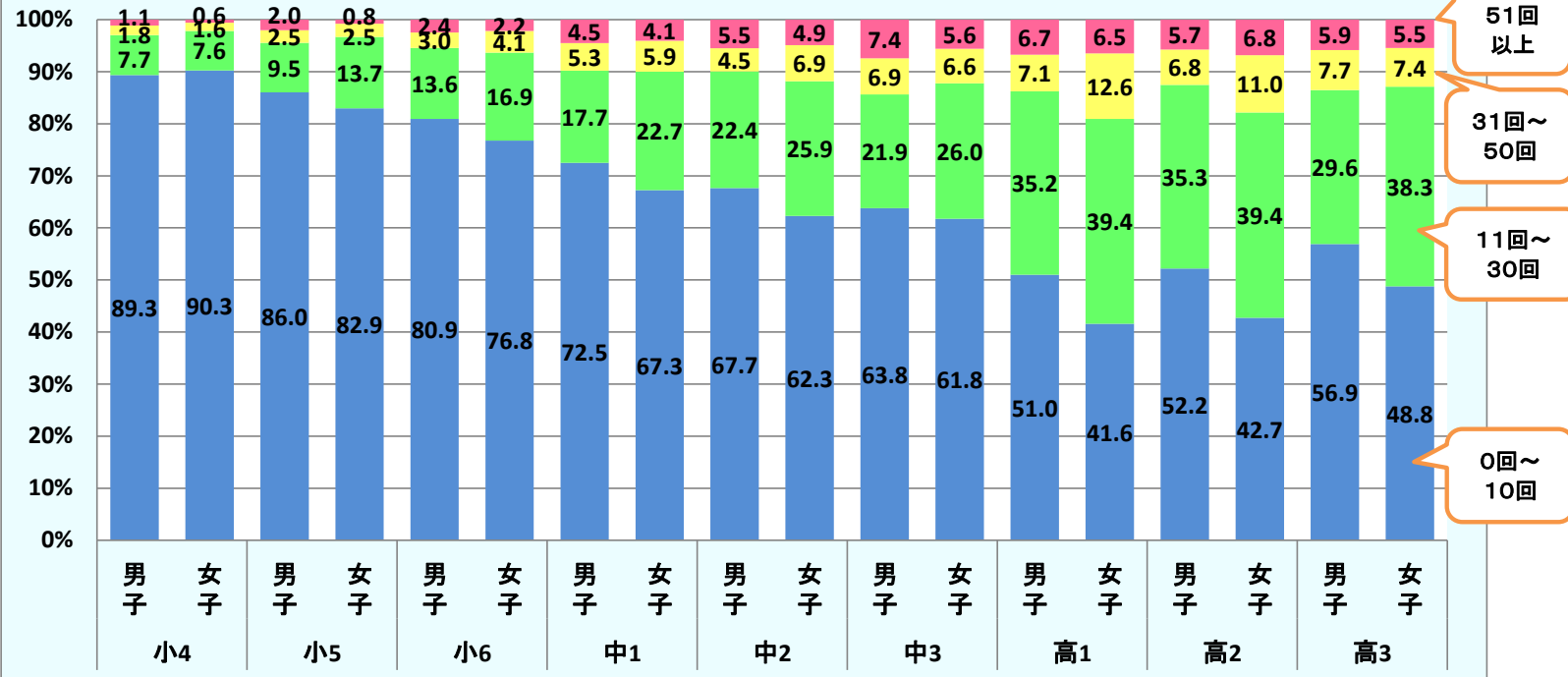
Q12.使う時間は1日あたりどれくらいですか。(Q11で「ほぼ毎日使う」と答えた人)



【傾向】
 ・前年と同様、高校生の使用時間が長く、40%近くは3時間以上使用している状況が続いている。

【指導・啓発のポイント】
 ・長時間使用は、ネット依存・スマホ依存につながる。家庭でのルールづくりや時間制限フィルタリングについて、保護者への啓発が必要。

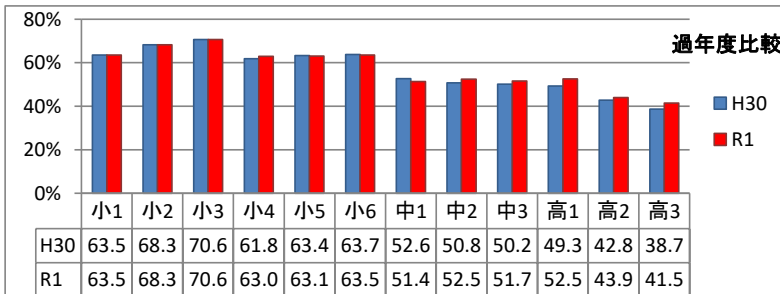
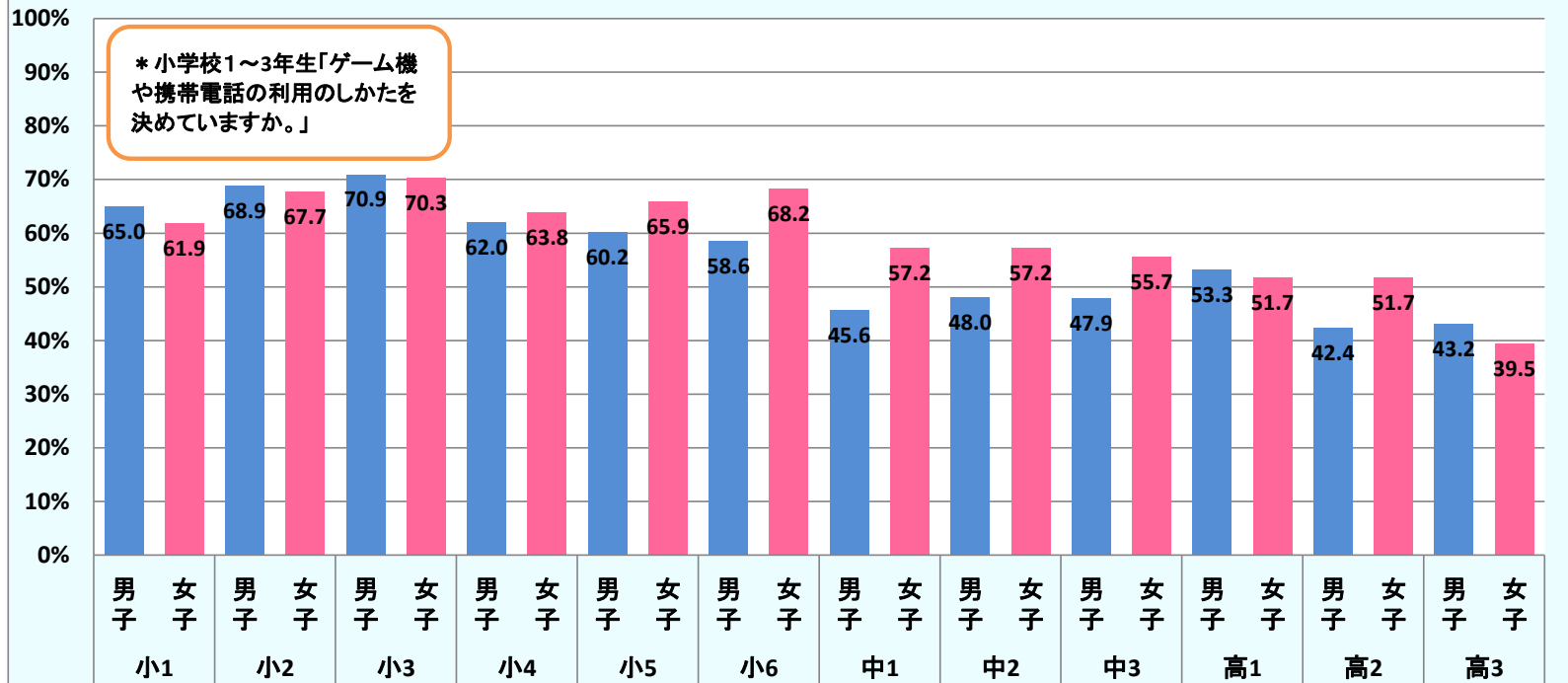
Q13.電子メールは、1日に何回ぐらい使いますか。
 (Q11で「ほぼ毎日使う」「たまに使うだけ」と答えた人)



【傾向】
 ・年齢が上がっていくにつれて、使用頻度が高くなっている。
 ・高校生女子の使用頻度が高い。

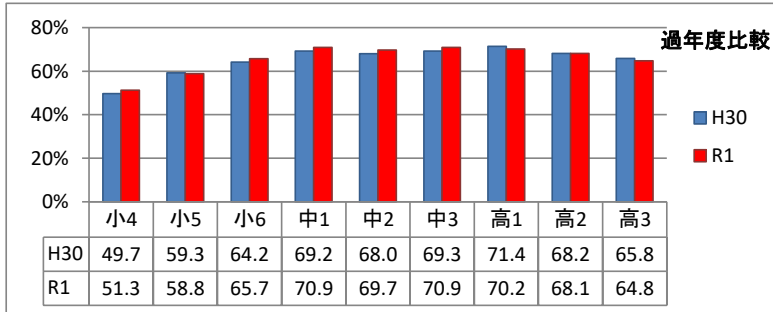
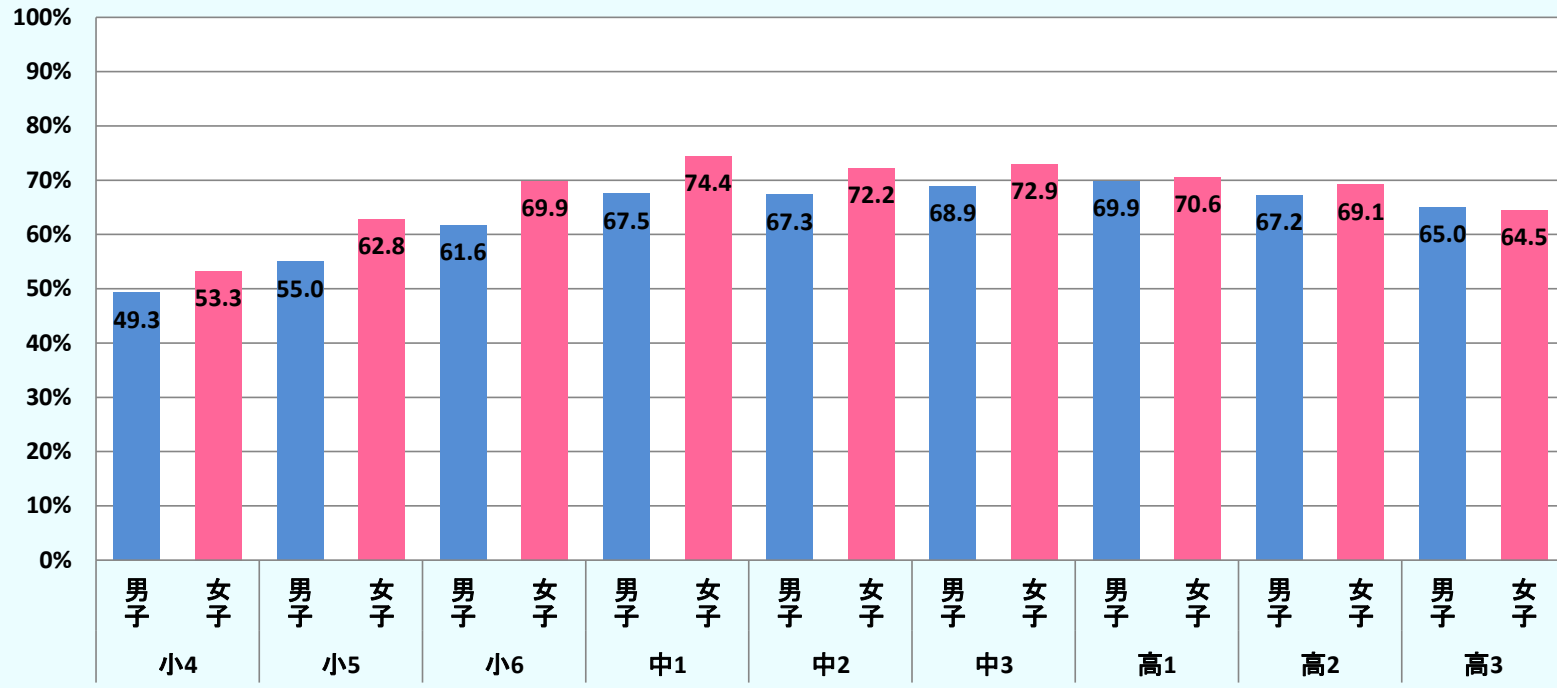
【指導・啓発のポイント】
 ・「友だちとのやりとりをなかなか終わらせられない」「書き込んだ内容がうまく伝わらず誤解された」などのトラブルに発展したことも回数が多くなっている原因となっている可能性も想定されることから、良識的で誤解を受けない内容が振り返らせる。

Q14.あなたの家では自分が使う携帯電話(兄弟姉妹・保護者のものも含む)の
利用のしかたを決めていますか。



【傾向】
 ・前年と比較して、利用のしかたを決めている割合が若干増加している。
【指導・啓発のポイント】
 ・家庭でのルールづくりが広がりつつあるが、ルールをつくって終わりではなく、そこがスタート地点であり、使う目的やネット社会の危険性について話し合い、子どもの利用状況を見守ることやトラブルへの対応など、保護者への働きかけが必要。

Q15.あなたは、家庭で情報モラルや携帯電話のマナーについて話を聞いたことがありますか。



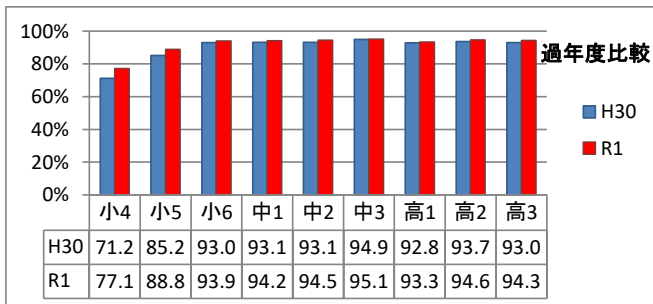
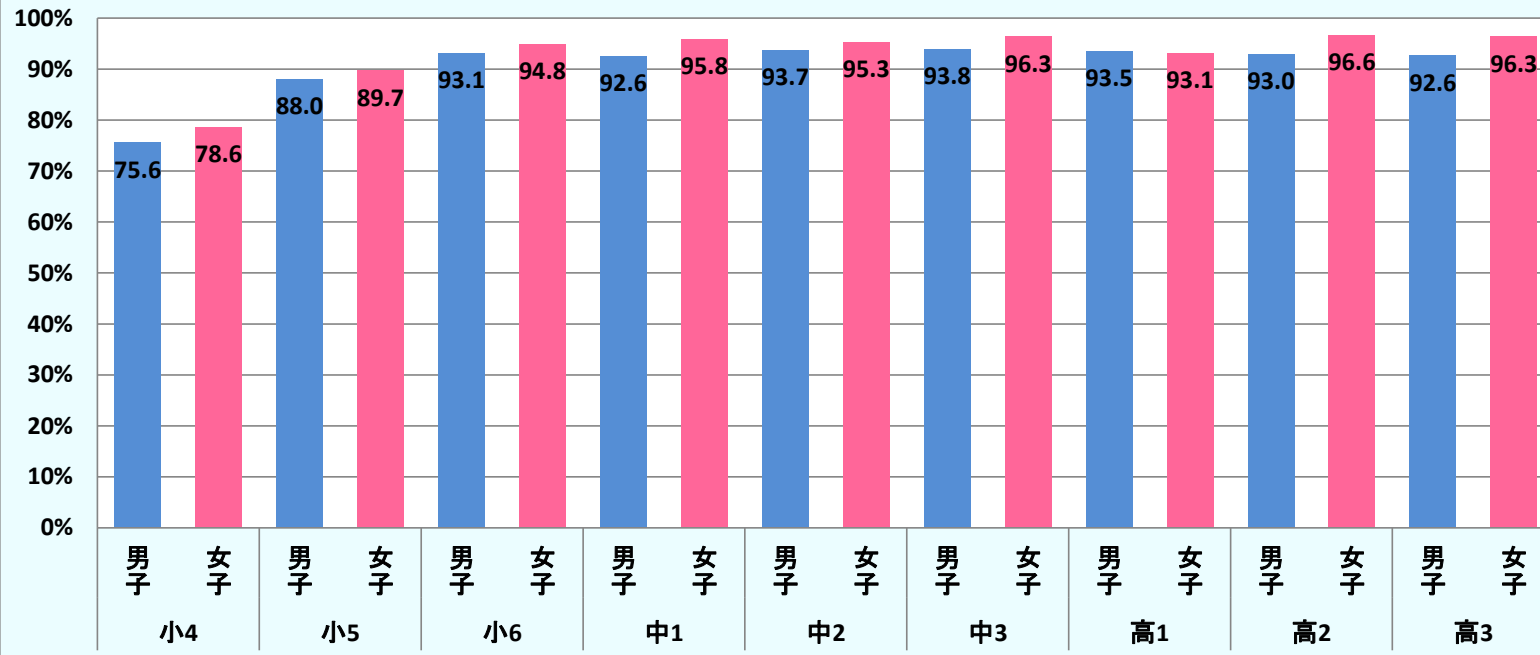
【傾向】

・中～高では、家庭で情報モラルやマナーについて、6～7割の生徒が話を聞いたことがあると回答している。

【指導・啓発のポイント】

- ・「使う時間」「知らない人からのメール等に返信しない」「他人が傷つくような書き込み等はしない」などのマナーを守って使用させる。
- ・高額請求やプライバシー侵害など犯罪に関わる場合もあり、児童生徒の携帯電話等の利用実態を把握するよう保護者に働きかけることが重要である。

Q16.あなたは、学校の授業(朝の会、帰りの会を含む)で、情報モラルや携帯電話のマナーについて勉強したことがありますか。



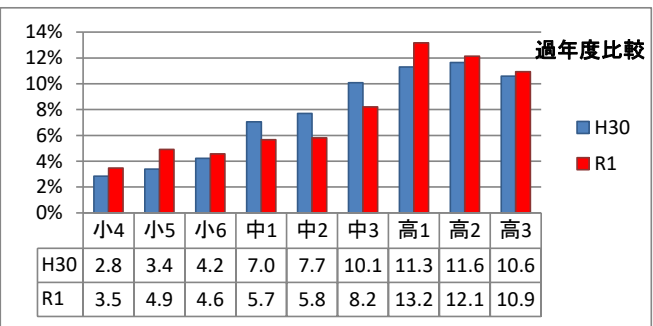
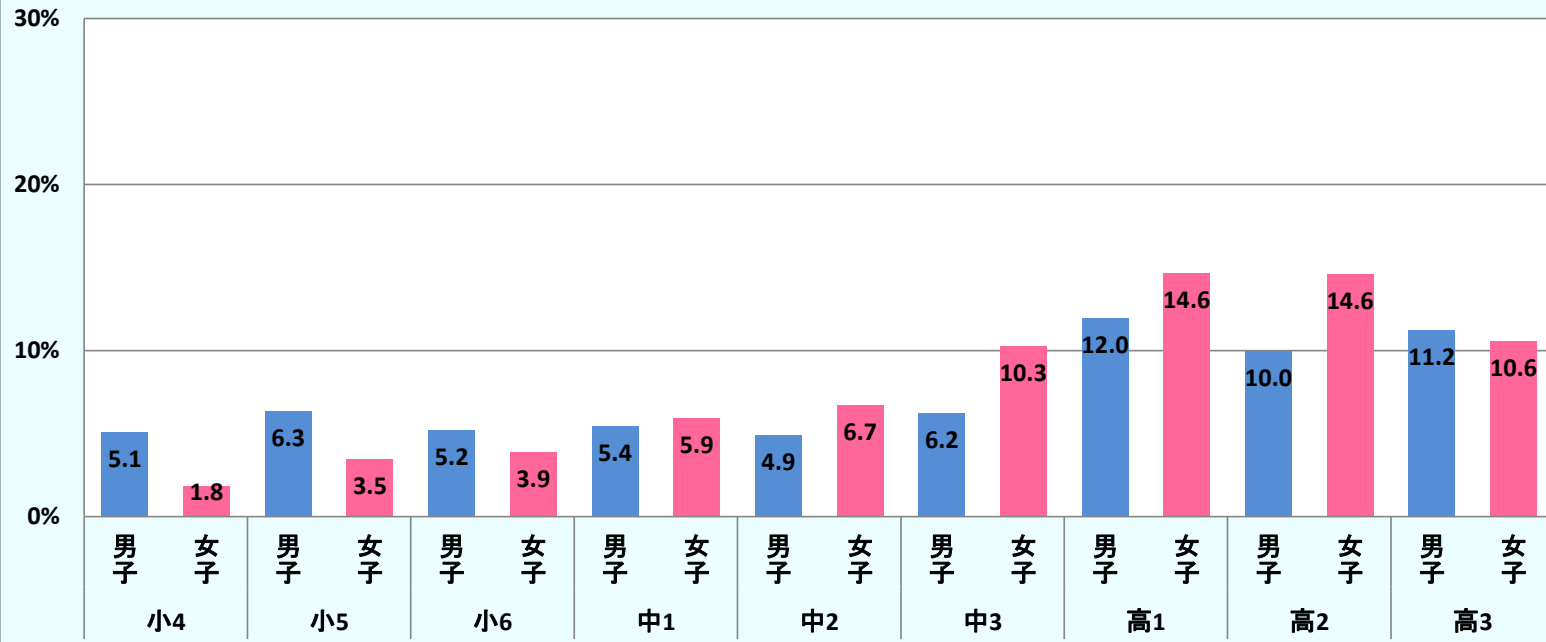
【傾向】

- ・毎年高い水準を維持している。
- ・小学校5年生以上では、約90%以上となっている。

【指導・啓発のポイント】

- ・携帯型ゲーム機からも、インターネットに接続することが可能であることから、小学校低学年から、繰り返し指導する。
- ・新聞やニュースで情報モラルに関わる内容が話題になったときに、朝の会・SHRや保護者会などで取り上げて意見交流するなど、日常的に指導する。

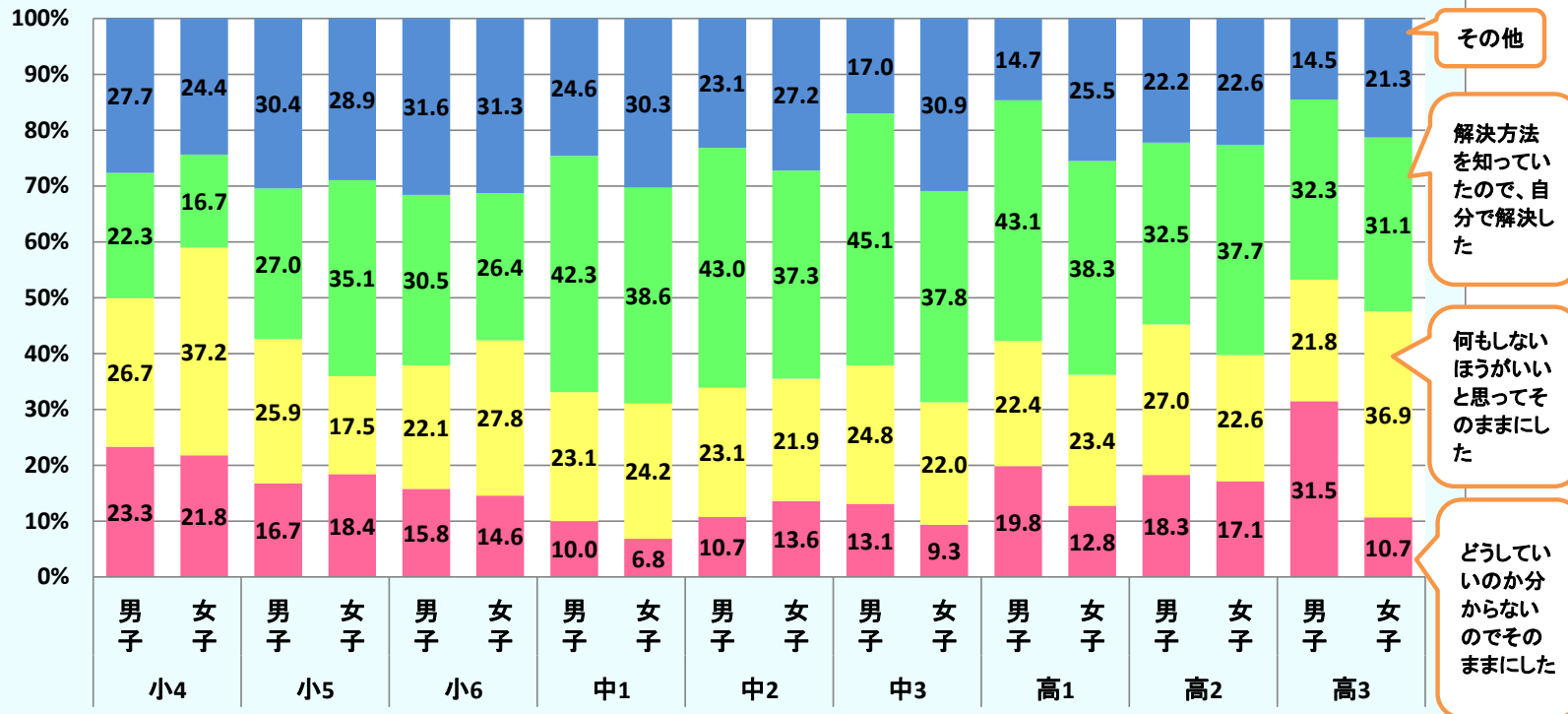
Q17.あなたは、インターネットや携帯電話のメールやチャット、SNSなどで被害を受けたり、いやな思いをしたりしたことがありますか。



【傾向】
 ・前年度と比較して、高校生での被害が増加している。
 ・小学生では男子の割合が高く、中学生、高校生では女子の割合が高くなっている。

【指導・啓発のポイント】
 ・フィルタリングで軽減可能な事案も多くあることから、フィルタリングを設定する意味や、危険性に関する学習が必要である。
 ・ネット上の書き込みは、自分の思いが伝わらない場合もあり、書き込む内容に注意するよう指導する。

Q18.被害を受けたとき、どうしましたか。(Q17で「ある」と答えた人のみ)

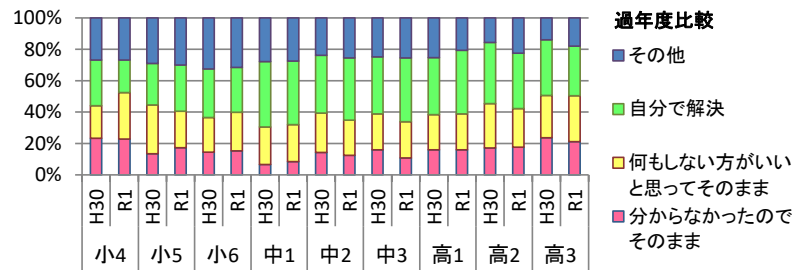


その他

解決方法を知っていたので、自分で解決した

何もしない方がいいと思ってそのままにした

どうしているのかわからないのでそのままにした



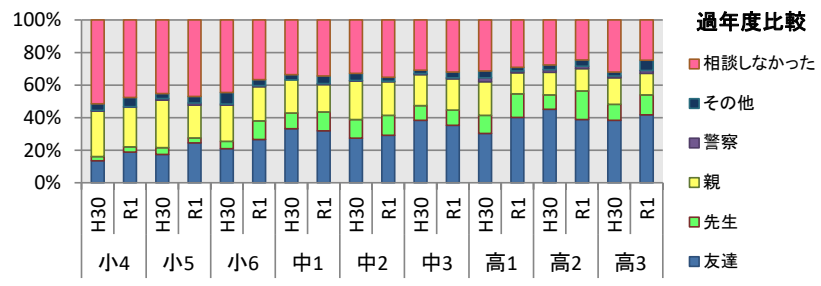
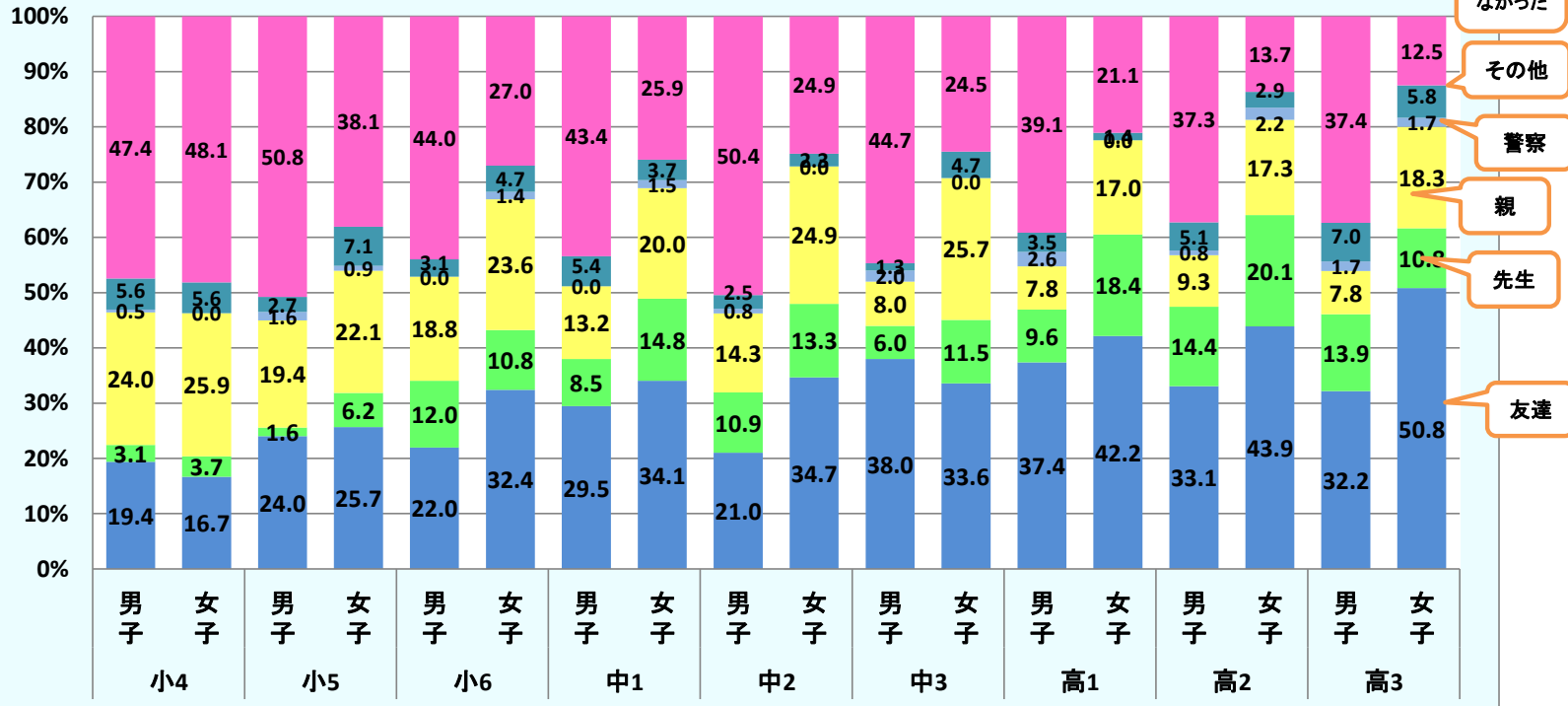
【傾向】

・どの学年においても、「何もしない」「どうしているのかわからない」の回答率が40%前後ある。

【指導・啓発のポイント】

・被害を受けたときのトラブル対処法として、保護者、教員に気軽に相談できることや、相談窓口などの情報を児童生徒に周知する。

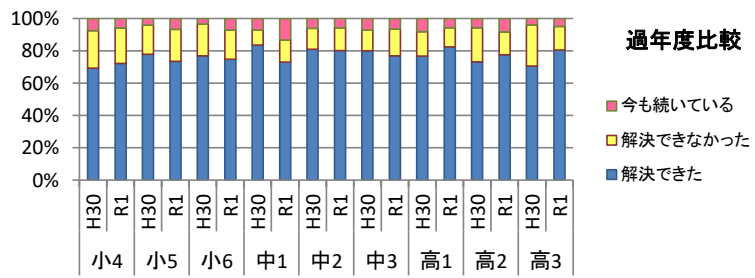
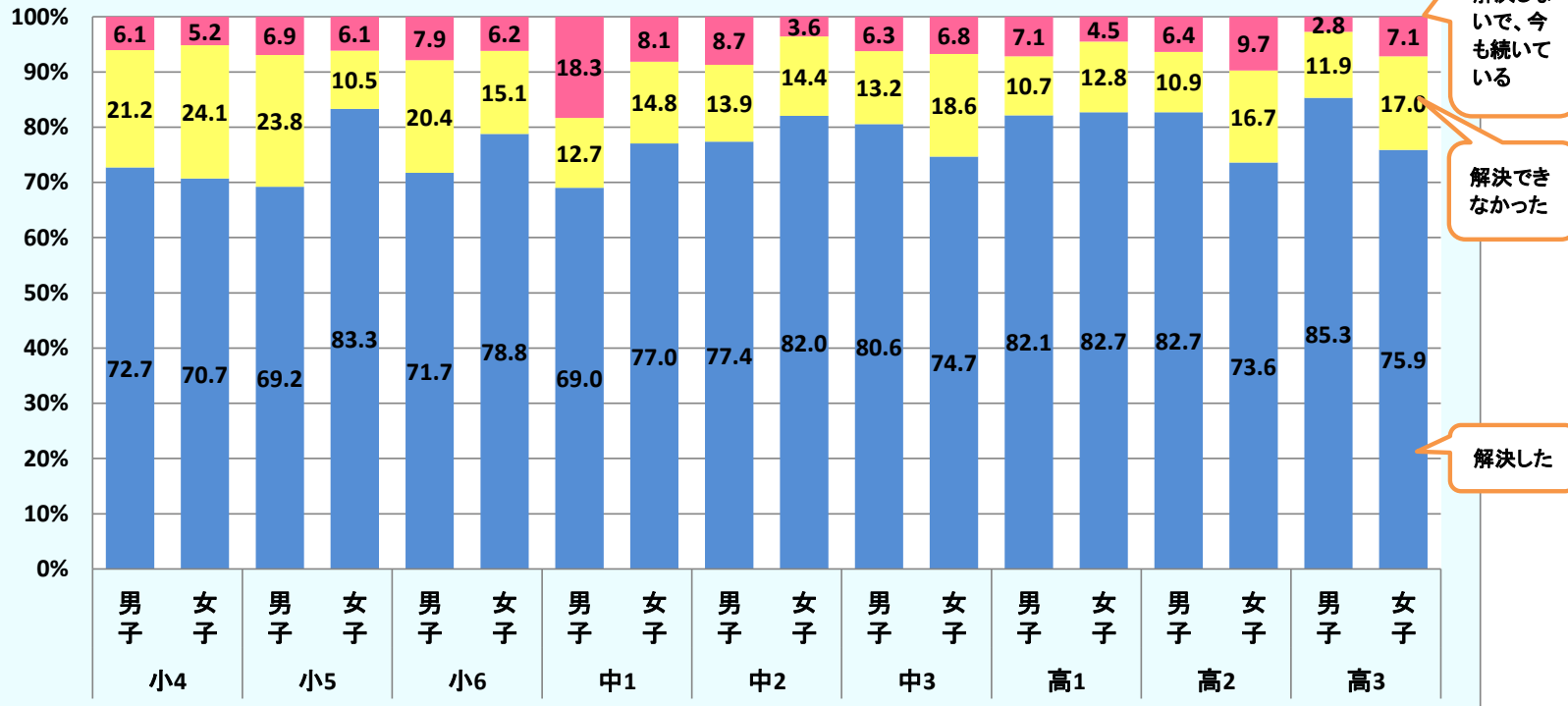
Q19.被害を受けたとき、誰かに相談しましたか。(Q17で「ある」と答えた人)



【傾向】
 ・男子は被害を受けても誰にも相談しない割合が高く、女子は友達や保護者に相談する割合が高い。

【指導・啓発のポイント】
 ・友だちに相談するだけでは解決できず、より被害が拡大する事例もあることから、被害にあった際には、親や先生など身近な大人に相談するよう指導する。

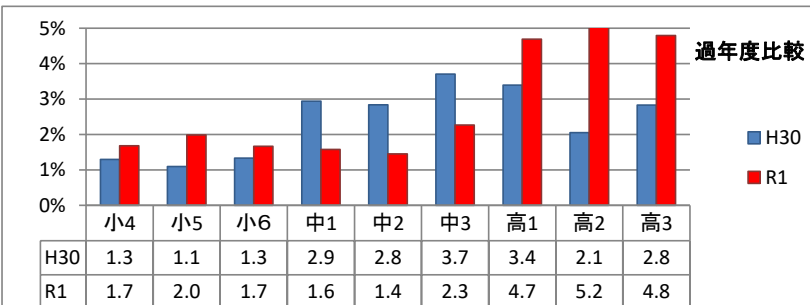
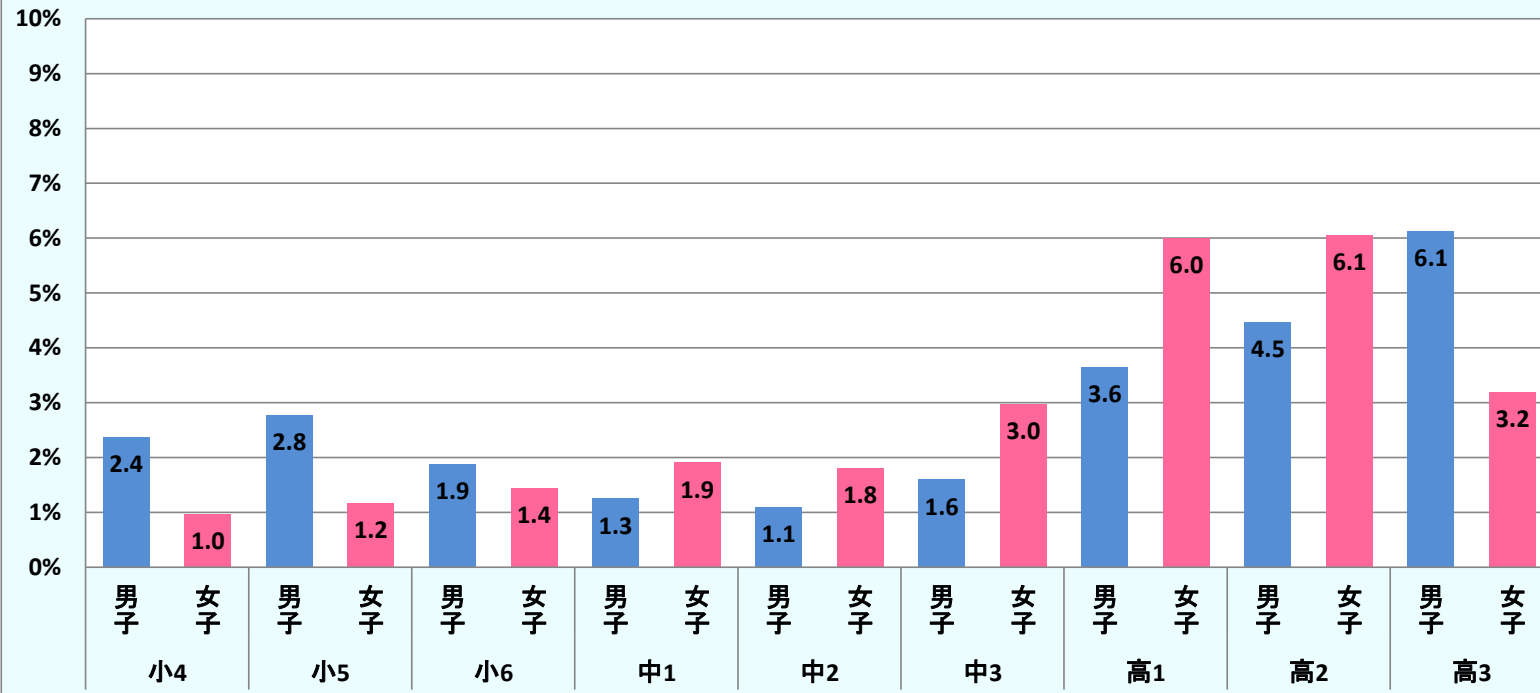
Q20.被害は解決できましたか。(Q17で「ある」と答えた人)



【傾向】
 ・前年と比較して、高校生において、「解決できた」割合が増加した。

【指導・啓発のポイント】
 ・学年に関係なく、被害を受けた際には、なかなか解決できない状況がある。特にトラブルが継続している場合には、ネットいじめである可能性もあるため、トラブル時には身近に相談ができる体制や雰囲気づくりが必要であることを保護者にも伝える。

Q21.メールやSNSの書き込みで、いじめを受けたことがありますか。



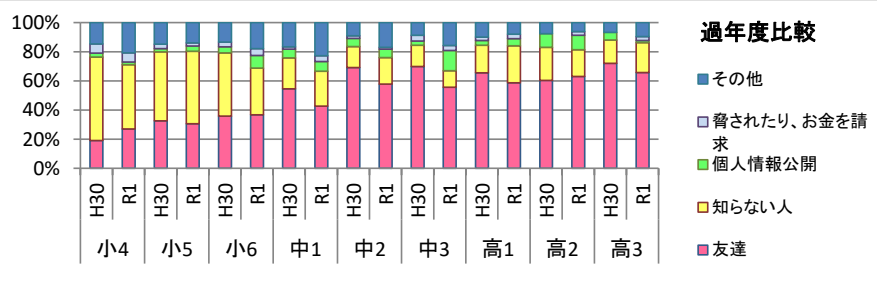
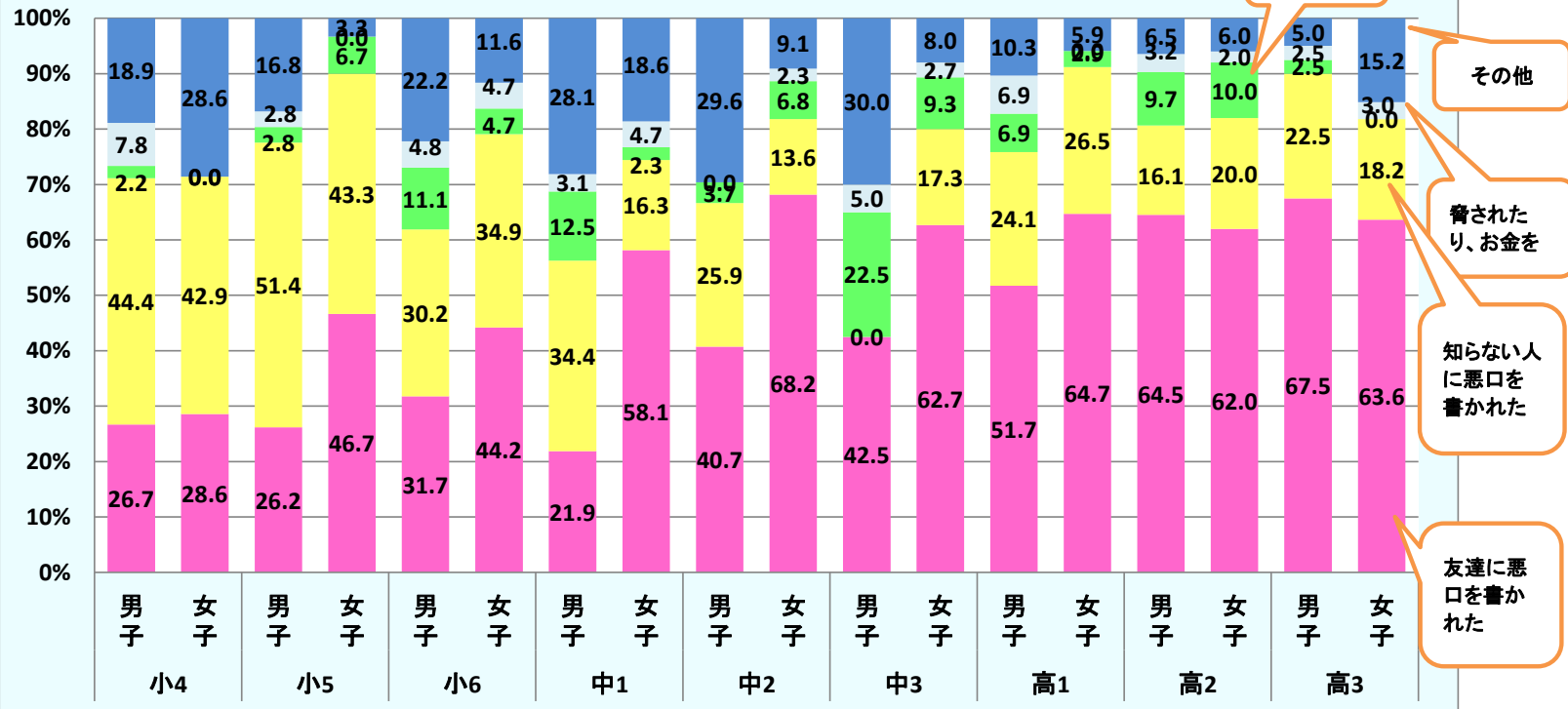
【傾向】

- ・前年度と比較して、小学校から中学校については減少しているが、高校生については大きく増加している。
- ・特に高校生女子がいじめを訴えている割合が大きい。

【指導・啓発のポイント】

- ・SNS、書き込み等が要因の1つであると思われるため、スマートフォンを介したネットいじめの事例を具体的に紹介する。
- ・自由なインターネットの世界でも、モラルやルールがあることを理解させる。

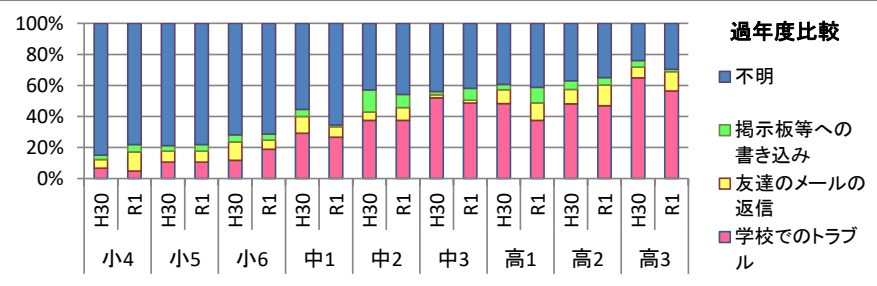
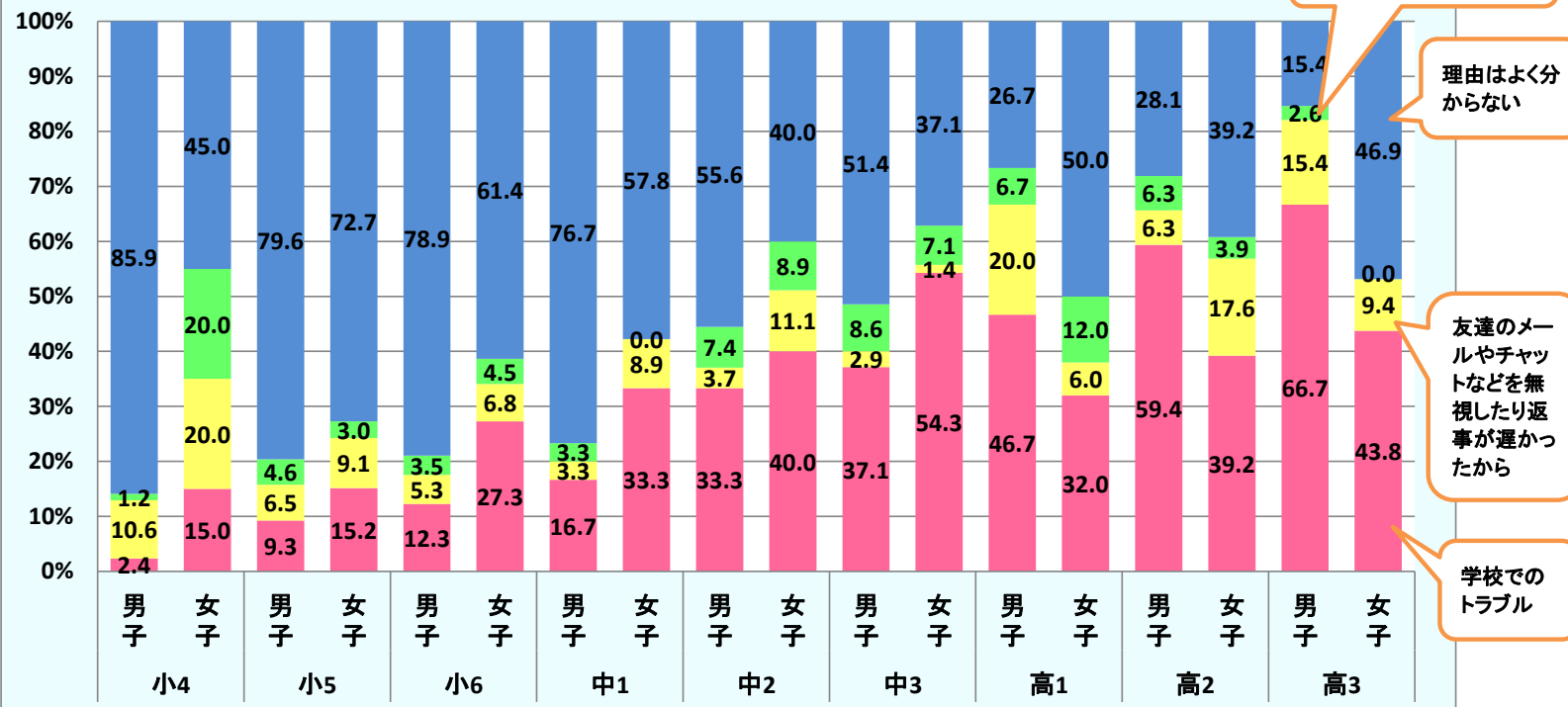
Q22.いじめを受けたと感じた理由は何ですか。(Q21で「ある」と答えた人)



【傾向】
 ・小学校では、知らない人に悪口を書かれた割合が高い。
 ・中学生・高校生では友達に悪口を書かれる割合が高い。

【指導・啓発のポイント】
 ・小学生ではオンラインゲーム等によるつながりに注意する必要がある。
 ・日常のトラブルをネット上に持ち込んでしまわないように指導する必要がある。

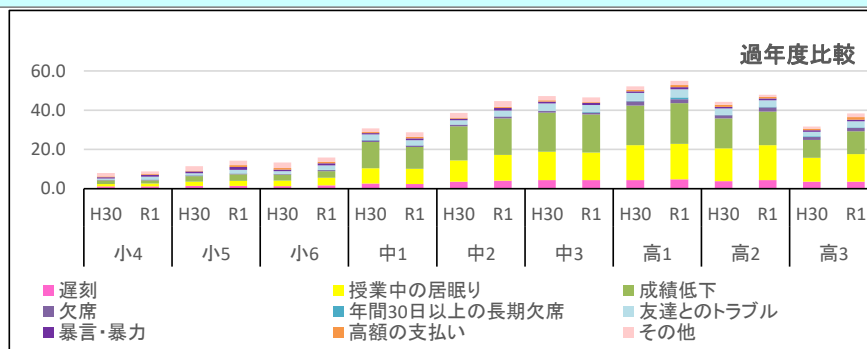
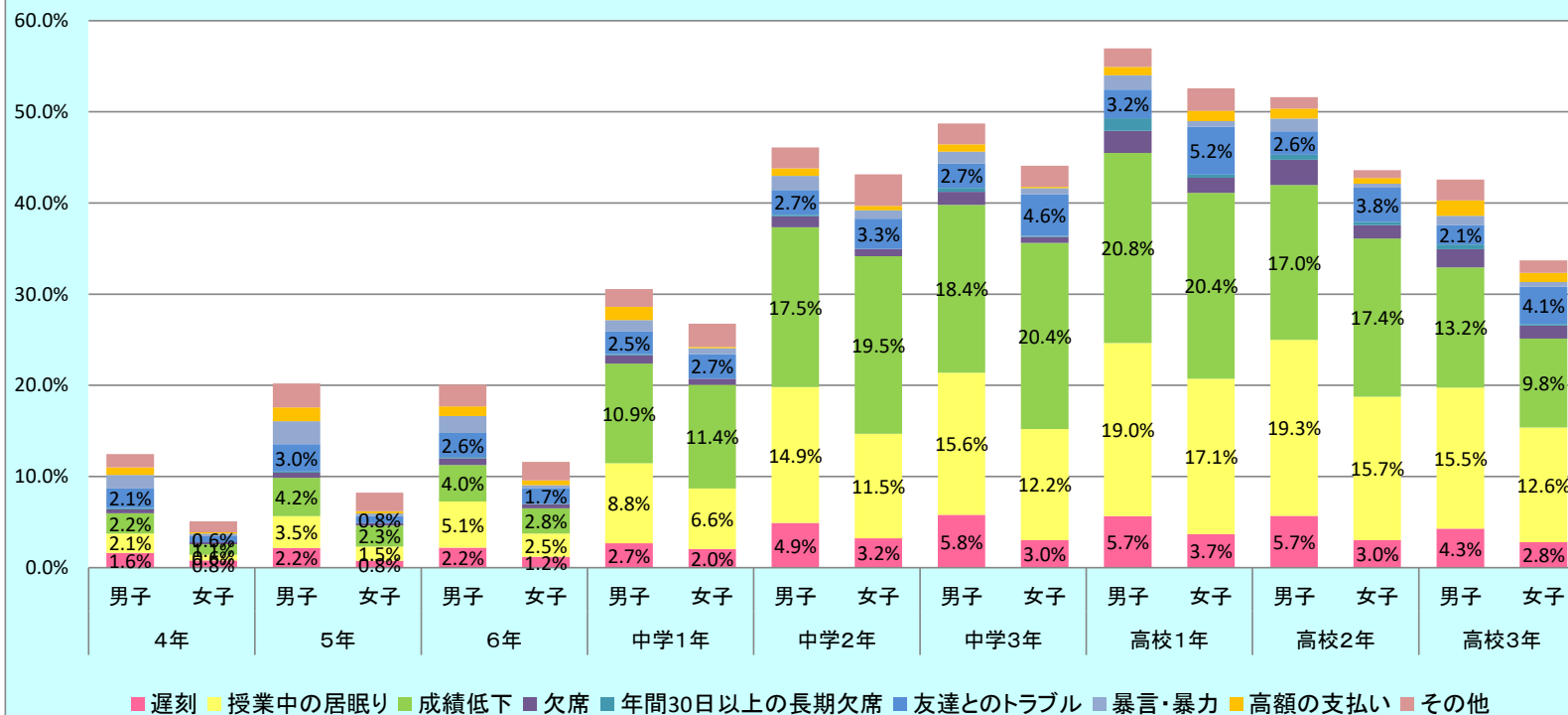
Q23.何が原因でネットいじめを受けたと思いますか。(Q21で「ある」と答えた人)



【傾向】
 ・掲示板やブログへの書き込みから、いじめに発展しているケースがみられる。特に、小4の女子はその傾向が顕著であった。
 ・「学校でのトラブル」に起因するネットいじめの割合が、学年が進むにつれて高くなり、特に中学生以降顕著になる。

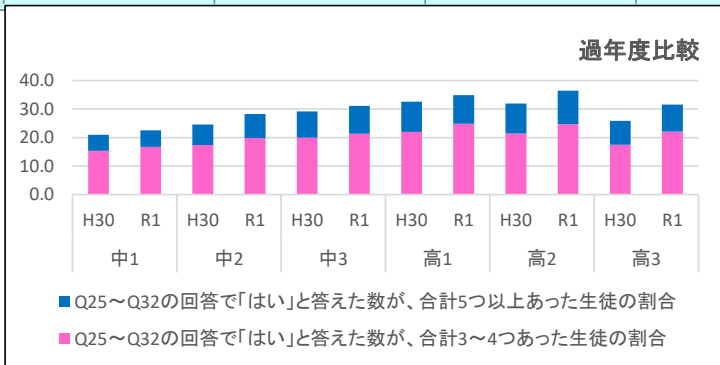
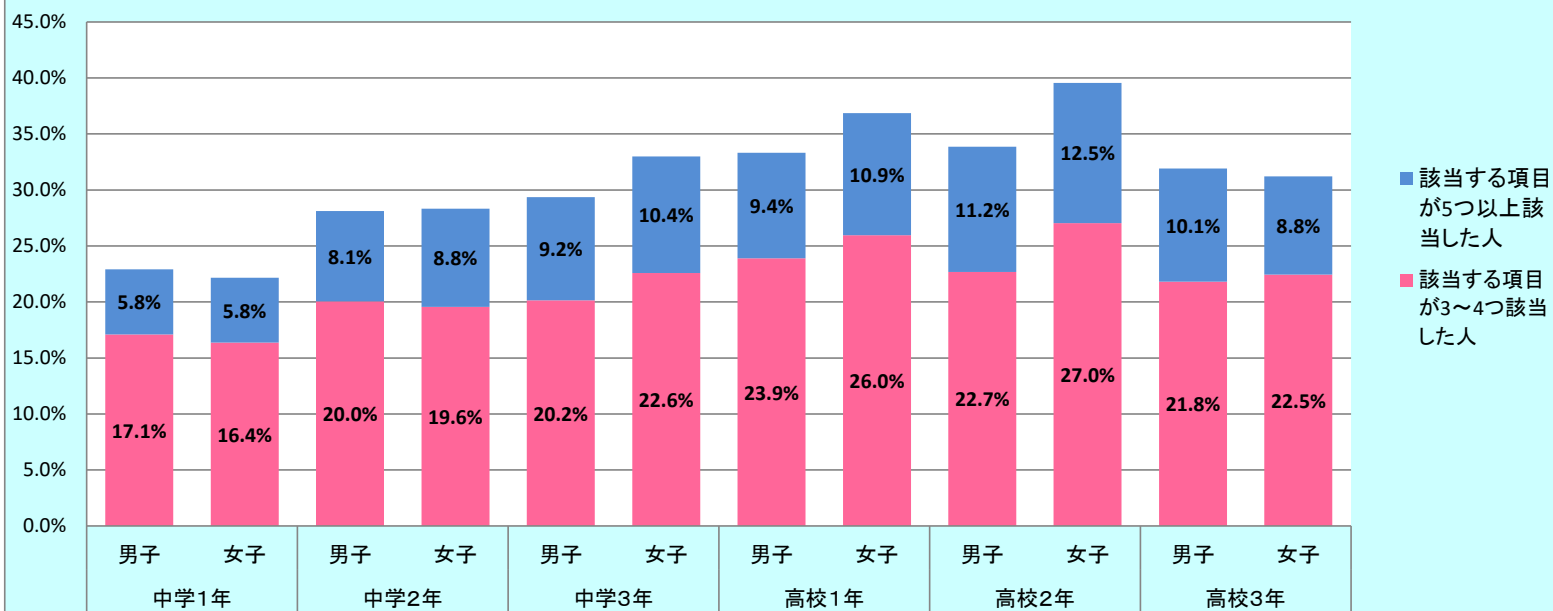
【指導・啓発のポイント】
 ・「理由はよく分からない」と回答した児童生徒には、ゲームやチャットなどの書き込み内容を見直すよう指導する。

Q24.今までにインターネットの使いすぎにより何か問題を起こしたことがありましたか。



【傾向】
 ・中高生は、授業中の居眠りや成績低下を自覚している。
【指導・啓発のポイント】
 ・インターネットの使い過ぎの状況を改善するため、家庭でのルールの徹底や継続的な見守りについての保護者への理解啓発が必要。
 ・ネット依存が続くと、病気になってしまうことを保護者にも認識させる。

ネット依存傾向について



【傾向】
 ・ネット依存傾向が感じられる児童生徒が、どの学年も一定数存在している。特にスマートフォン等所持が高い中学3年以降増加する。前年と比較してほぼすべての学年で増加している。

【指導・啓発のポイント】
 ・5つ以上該当した人は、ネット依存の可能性が高い。3~4つ該当した人もかなり注意する必要がある。
 ・今後、「ゲーム障がい」として正式な病気に分類され、認知されることが考えられるため、一層の情報モラルの理解啓発が必要。

項目
インターネットに夢中になっていると感じている。
満足を与えるために、インターネットを使う時間をだんだん長くしていかなければならないと感じている。
インターネット使用を制限したり、時間を減らしたり、完全にやめようとしたが、うまくいかなかったことがたびたびある。
インターネットの使用時間を短くしたり、完全にやめようとした時、落ち着かなかったり、不機嫌や落ち込み、またはイライラなどを感じる。
使いはじめに意図したよりも長い時間インターネットを接続した状態である。
インターネットのために大切な人間関係、学校のことや、部活動のことを台無しにしたり、あやうくすることがあった。
インターネットへの熱中のしすぎをかくすために、家族、学校の先生やその他の人たちにうそをついたことがあった。
問題から逃げるために、または、絶望的な気持ち、罪悪感、不安、落ち込みなどといったいやな気持ちから逃げるために、インターネットを使う。